ISSN 1341－8319

松戸市立博物館年報

第25号－平成29年度（2017）

松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

平成29年度の当館の活動について、簡単にご報告させていただきます。

まず、展覧会ですが、春には館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」を開催しました。当館がこれほどたくさんのこけしを所蔵していることに驚きを感じるとともに、どのこけしが好きか投票していただきました。

夏には館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」を開催しました。期間中の8月20日には「820（はにわ）の日」にちなみ、埴輪グッズを作りました。初めての試みでしたが大変好評でした。

秋には企画展「本土寺と戦国の社会」を開催しました。最近購入した「西原文書」などを使い、新しい戦国時代像を示しました。期間中の講演会はどれも満席で、本土寺と戦国時代の歴史に関心が高いことがうかがわれました。

冬は、恒例の学習資料展「昔のくらし探検」です。小学校３年生の社会科の単元にあわせた展示で、市内外の多くの生徒が熱心に勉強していました。また、認知症予防など、高齢者福祉にも広く活用して頂いています。

さて、一昨年に立ち上げた新しい企画ですが、「松戸市立博物館アワード」は、前年を上回る応募があり、この企画が広く浸透してきたことがうかがわれました。

もう１つの「江戸落語を聞く会」は、「博物館デー」企画と併せて、「松戸駅前博物館」に発展しました。松戸市民劇場を舞台に、博物館が館外にも活動の場を設けることで、よりいっそう市民の皆様に親しまれる博物館を目指す所存です。

最後になりましたが、昨年度も「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、博物館の事業を進めることが出来ました。厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成30年８月31日

松戸市立博物館

Ⅰ　沿　革 …… 3
Ⅱ　施設の概要 …… 5
Ⅲ　事業の概要 …… 6
　1　常設展示
　　⑴総合展示
　　⑵主題展示
　　⑶野外展示
　　⑷映像展示
　2　資料・企画展示 …… 9
　　⑴館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」
　　⑵館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」
　　⑶企画展「本土寺と戦国の社会」
　　⑷学習資料展「昔のくらし探検」
　　⑸ミニ写真展
　　⑹第３回松戸市展選抜展
　　⑺松戸市小中学生優秀作品展
　3　学習支援 …… 28
　　⑴講演会
　　⑵講座
　　⑶体験学習
　　⑷ミュージアムシアター・プレイルーム
　　⑸館内公開
　　⑹ガイドツアー（常設展示解説）
　　⑺情報提供
　　⑻博物館実習
　　⑼教員・生徒・児童の職場研修・職場体験学習の受け入れ
　4　共催事業 …… 47
　　⑴千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会向け展示解説会（ナイトミュージアム）
　　⑵松戸市ＰＴＡ連絡協議会常任評議委員会及び研修会
　5　調査・研究 …… 48
　　⑴研究員の活動
　　⑵学芸員の活動
　6　資料の収集と利用 …… 52
　　⑴資料の収集
　　⑵博物館資料の貸出
　　⑶博物館資料の特別利用
　　⑷資料の燻蒸等
　7　平成29年度　常設展・企画展アンケート結果…… 55
　　⑴平成29年度常設展
　　⑵館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」
　　⑶館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」
　　⑷企画展「本土寺と戦国の社会」
　　⑸学習資料展「昔のくらし探検」
Ⅳ　組織と運営 …… 60
　1　組織
　2　歳出予算
　3　事務事業
　4　各種委員会等
　5　博物館利用者数の統計
　6　来訪者
Ⅴ　条例・規則 …… 66
　　職員名簿

Ⅰ 沿　革

月　日	事　項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置（50㎡）
昭和46年４月	㈶松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。（227.47㎡）
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。（330㎡）
昭和56年３月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。
	松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会条例制定
５月	松戸市美術館構想調査会発足［委員７名］
昭和58年８月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想について答申（18回開催）
昭和59年４月	社会教育部内に美術館準備室設置
６月	松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）建設調査会発足［委員10名］
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年３月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申（７回開催）
昭和63年９月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置［委員15名］
10月	第４次総合５ヶ年計画で郷土博物館（仮称）建設決定
	美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足［委員10名］
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定
	松戸市立郷土博物館設立懇談会発足［委員８名］
平成元年３月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定
	松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
４月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
８月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足［委員８名］
	展示基本設計を㈱乃村工藝社に委託
12月	建築設計事務所を㈱佐藤総合計画に決定
平成２年２月	建築基本設計を㈱佐藤総合計画に委託
３月	建築実施設計を㈱佐藤総合計画に委託
６月	展示実施設計を㈱乃村工藝社に委託
９月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約
	博物館新築工事着手
平成３年９月	展示工事及び展示物製作を㈱乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成４年１月	外構工事着手
３月	植栽工事着手
４月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
６月	建築工事、外構工事竣工
７月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
９月	松戸市立博物館条例制定（館名「松戸市立博物館」に決定）

12月	野外展示工事竣工
平成５年１月	展示工事竣工
３月	松戸市立博物館管理運営規則制定
４月	**松戸市立博物館開館（29日）**
	初代岩崎卓也館長就任
10月	松戸市立博物館協議会発足［委員10名］
平成６年４月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
６月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点　国重要文化財指定（28日付）
平成７年６月	博物館登録 千葉県教育委員会　平成７年６月９日　登録番号第30号 博物館資料数　4,385点 歴史資料　1,686点 考古資料　2,650点 民俗資料　　49点
平成８年10月	博物館等資料選定評価委員会発足［委員５名］
平成９年３月	博物館開館５周年記念特別展示（期間：３月20日から５月11日まで） 「シルクロードとガンダーラ」展を実施
平成10年４月	博物館事業として「自然史」を加える。（松戸市立博物館条例改正） 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。（松戸市立博物館条例改正）
平成14年６月	松戸市立博物館友の会発足（16日）
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示（期間：10月11日から11月30日まで）「川の道　江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根木内歴史公園開園記念　企画展「戦国の城をさぐる」実施（期間：10月７日から11月26日まで）
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立５周年活動記録「５年のあゆみ」刊行
平成20年３月	初代岩崎卓也館長退任
４月	２代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示（期間：10月11日から12月７日まで） 「縄文時代の東・西」展を実施
平成21年５月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年３月	東日本大震災発生（11日）
４月	観覧料「中学生以下は無料」となる。（松戸市立博物館条例改正）
平成24年３月	２代関根孝夫館長退任
４月	３代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示（期間：10月５日から11月24日まで）「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を実施
平成26年12月	「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定（平成27年４月１日施行）
平成27年２月	『松戸市史　上巻（改訂版）　原始・古代・中世』を刊行

Ⅱ　施設の概要

建築の概要

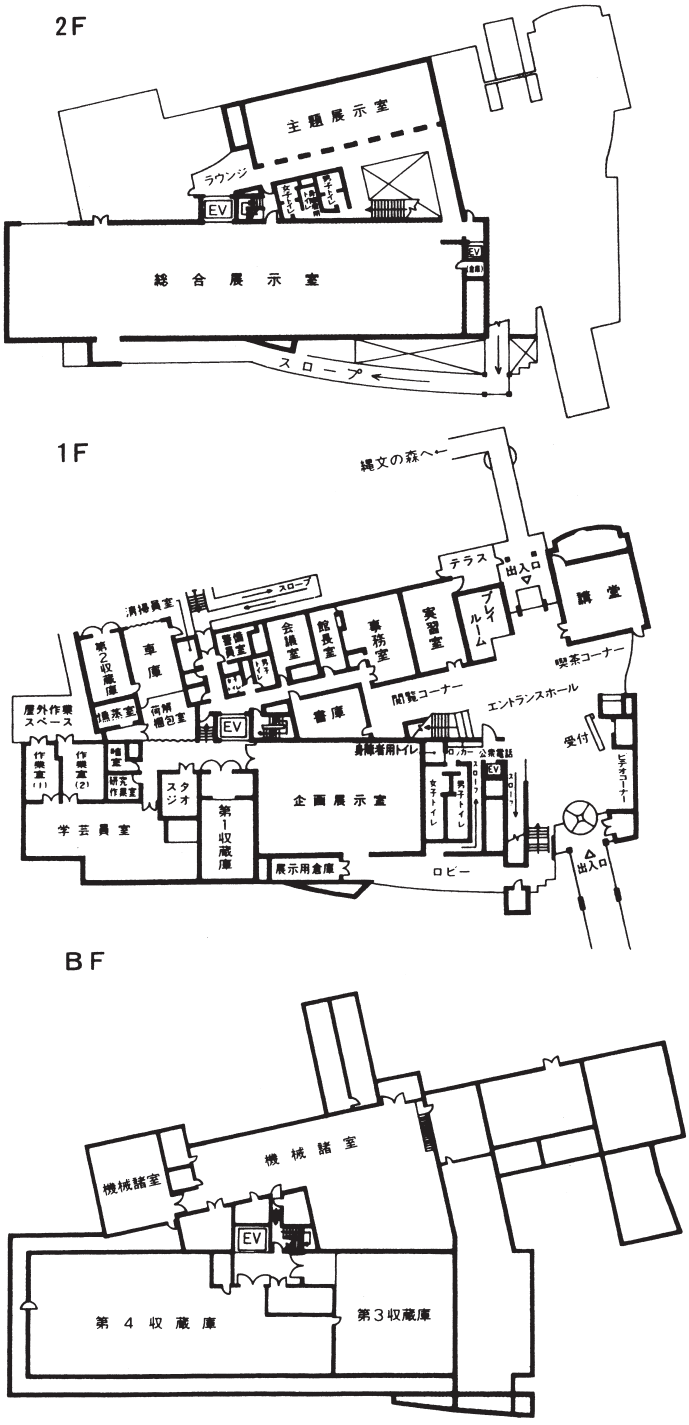
1) 敷地面積　7,795.81㎡　　**2) 建築面積**　2,709.92㎡
3) 延床面積　5,446.73㎡　　1階　2,515.17㎡／2階　1,542.92㎡／地下1階　1,388.64㎡
4) 階　　数　地下1階・地上2階　**5) 構　　造**　鉄筋コンクリート造一部鉄骨造（展示室　PRC梁構造）
6) 高　　さ　14.4m

注）博物館周辺環境との調和をはかるため高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

［各室の面積］

区分	室名	室数	階層	面積（㎡）
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	−	1	78.80
	ビデオコーナー	−	1	45.66
	小計			371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
	小計			300.97
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	−	B1	575.49
	管理共有部分	−	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	−	1	333.12
	喫茶コーナー	−	1	56.29
	ロビー	−	1	106.32
	スロープ	−	−	196.91
	共有部分	−	−	379.53
	小計			1,072.17
	合計			5,446.73

［各階の平面図］



Ⅲ　事業の概要

1　常設展示

(1) 総合展示

ゾーン１　人類の登場

■　松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料（石器）の展示については、単に「石」の羅列にならないように、３つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン２　狩りと採集のムラ

■　縄文人のくらし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■　ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■　人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン３　稲作社会の誕生

■　米作りのくらし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■　古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン４　下総国のはじまり

■　古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン５　武士と民衆

■　千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■　中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン６　町場と村

■　近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村（新田村を含む）に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■　宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の２つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■　小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ケ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計４回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など４か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン７　都市へのあゆみ

■　松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流鉄、東武野田線（いずれも現在の名称）が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■　下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地（下谷）、下総台地の開析谷周辺（谷津）、下総台地の平坦面（台）の３種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとって先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■　常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の２ＤＫのなかに復元されている。

⑵ 主題展示

主題１　考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遥か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題２　虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと、また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題３　二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前（江戸時代）から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題４　三匹獅子舞

松戸市内の３地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が３人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ（獅子）が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

⑶ 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居３棟を原寸復元した。常時、竪穴住居１棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

⑷ 映像展示

ビデオコーナー

■　ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト７作品を製作して公開している。

①大地に埋もれた歴史
②町並み今昔物語
③富士講
④万作を語る
⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
⑥三匹獅子舞～上本郷～
⑦三匹獅子舞～大橋～

2　資料･企画展示

⑴ 館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」

◆展示意図

博物館で収集を続けてきた館蔵資料の中から東北地方の伝統こけしを取り上げて、伝統工芸についての理解を深めることを目的とする。展示する資料は市民からの寄贈資料である。

◆主　　催　松戸市立博物館（企画担当　山田　尚彦〈当館学芸員〉）
◆後　　援　（公財）松戸市文化振興財団
◆協　　力　新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社
◆会　　期　平成29年４月25日（火）～６月11日（日）（開催日数42日間）
◆会　　場　企画展示室
◆観覧者数　4,116人
◆観 覧 料　無料
◆印 刷 物　ポスター　B2判　400枚
　　チラシ　A4判　10,000枚
　　こども用解説パンフレットA4版（館で製作）　1,000部



◆関連企画

⑴学芸員講演会「木地屋とこけし」（会場：講堂）
　対 象 者　一般
　開催月日　平成29年５月28日（日）13時～15時
　講　　師　山田　尚彦（当館学芸員）
　参加人数　44人

⑵関連映像の常時上映
　企画展示室：「鳴子こけし」３分30秒（一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会）
　エントランス：「こけし風土記」15分（鳴子木地玩具協同組合）＋
　　「こけし物語」17分（財団法人電源地域振興センター）
　※エントランスでのＶＴＲ視聴者数1,037人（一日平均25人）

⑶「ぬり絵でしおりをつくろう」
　11系統すべてのこけしを題材にして提供（11枚＋オリジナル１枚＝12種）
　参加者数　938人（大人506、子ども432）

⑷「スライドパズルで遊ぼう」
　企画展示室内で遊べるように、２種類のスライドパズルを提供（パズルは鵜沼豊・学習支援専門員が製作）

⑸ＴＤＫ（とうほく・でんとう・こけし）オールスターズ総選挙
　こけしをタレントに見立てて来館者による人気投票を実施し、累計の結果を企画展示室内で毎週掲示。最終結果は展覧会終了後に博物館のサイトで発表した。

no.	標本番号					系統別	製作者氏名	製作地
1	200101	−	24	−		遠刈田系	猪狩勝彦	宮城県
2	200101	−	25	−		遠刈田系	大沼昇治	宮城県
3	200101	−	26	−	1～5	遠刈田系	大沼昇治	宮城県
4	200101	−	27	−		遠刈田系	大葉亀之進	宮城県
5	200101	−	28	−		遠刈田系	菊池孝太郎	宮城県
6	200101	−	29	−		遠刈田系	斉藤良輔	宮城県
7	200101	−	30	−		遠刈田系	作田栄一	宮城県
8	200101	−	31	−		遠刈田系	作田隆	宮城県
9	200101	−	32	−		遠刈田系	桜井良雄	宮城県
10	200101	−	33	−		遠刈田系	佐藤丑蔵	宮城県
11	200101	−	34	−		遠刈田系	佐藤英太郎	宮城県
12	200101	−	35	−		遠刈田系	佐藤英太郎	宮城県
13	200101	−	36	−		遠刈田系	佐藤英太郎	宮城県
14	200101	−	37	−		遠刈田系	佐藤好一	宮城県
15	200101	−	38	−		遠刈田系	佐藤好一	宮城県
16	200101	−	39	−		遠刈田系	佐藤好一	宮城県
17	200101	−	40	−		遠刈田系	佐藤好一	宮城県
18	200101	−	41	−		遠刈田系	佐藤三蔵	宮城県
19	200101	−	42	−		遠刈田系	佐藤忠	宮城県
20	200101	−	43	−		遠刈田系	佐藤忠	宮城県
21	200101	−	44	−		遠刈田系	佐藤哲郎	宮城県
22	200101	−	45	−		遠刈田系	佐藤哲郎	宮城県
23	200101	−	46	−		遠刈田系	佐藤照雄	宮城県
24	200101	−	47	−		遠刈田系	佐藤照雄	宮城県
25	200101	−	48	−		遠刈田系	佐藤照雄	宮城県
26	200101	−	49	−	1～5	遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
27	200101	−	50	−	1～5	遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
28	200101	−	51	−	1～5	遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
29	200101	−	52	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
30	200101	−	53	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
31	200101	−	54	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
32	200101	−	55	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
33	200101	−	56	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
34	200101	−	57	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
35	200101	−	58	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
36	200101	−	59	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
37	200101	−	60	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
38	200101	−	61	−		遠刈田系	佐藤富雄	宮城県
39	200101	−	62	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
40	200101	−	63	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
41	200101	−	64	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
42	200101	−	65	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
43	200101	−	66	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
44	200101	−	67	−		遠刈田系	佐藤富治海	宮城県
45	200101	−	68	−		遠刈田系	佐藤文男	宮城県
46	200101	−	69	−		遠刈田系	佐藤文男	宮城県
47	200101	−	70	−		遠刈田系	佐藤文男	宮城県
48	200101	−	71	−		遠刈田系	佐藤文吉	山形県
49	200101	−	72	−		遠刈田系	佐藤文吉	山形県
50	200101	−	73	−		遠刈田系	佐藤文吉	山形県
51	200101	−	74	−		遠刈田系	佐藤文吉	山形県
52	200101	−	267	−		遠刈田系	佐藤文助	宮城県
53	200101	−	86	−		遠刈田系	佐藤護	宮城県
54	200101	−	89	−		遠刈田系	佐藤護	宮城県
55	200101	−	90	−		遠刈田系	佐藤守正	宮城県
56	200101	−	91	−		遠刈田系	佐藤守正	宮城県
57	200101	−	92	−		遠刈田系	佐藤守正	宮城県
58	200101	−	93	−		遠刈田系	佐藤守正	宮城県
59	200101	−	94	−		遠刈田系	佐藤守正	宮城県

no.	標本番号				系統別	製作者氏名	製作地
60	200101	−	95	−	遠刈田系	佐藤守正	宮城県
61	200101	−	96	−	遠刈田系	佐藤守正	宮城県
62	200101	−	97	−	遠刈田系	佐藤守正	宮城県
63	200101	−	269	−	遠刈田系	佐藤守正	宮城県
64	200101	−	270	−	遠刈田系	佐藤守正	宮城県
65	200101	−	98	−	遠刈田系	佐藤好秋	宮城県
66	200101	−	99	−	遠刈田系	佐藤好秋	宮城県
67	200101	−	100	−	遠刈田系	佐藤好秋	宮城県
68	200101	−	102	−	遠刈田系	高橋広平	宮城県
69	200101	−	103	−	遠刈田系	高橋広平	宮城県
70	200101	−	105	−	遠刈田系	我妻敏	宮城県
71	200101	−	106	−	遠刈田系	我妻芳夫	宮城県
72	200101	−	258	−	作並系	平賀謙次郎	宮城県
73	200101	−	259	−	作並系	平賀忠	宮城県
74	200101	−	260	−	作並系	平賀貞蔵	宮城県
75	200101	−	246	−	山形系	会田栄治	山形県
76	200101	−	247	−	山形系	会田栄治	山形県
77	200101	−	248	−	山形系	会田栄治	山形県
78	200101	−	249	−	山形系	奥山広三	山形県
79	200101	−	250	−	山形系	小林栄蔵	山形県
80	200101	−	251	−	山形系	小林孝太郎	山形県
81	200101	−	252	−	山形系	小林清次郎	山形県
82	200101	−	253	−	山形系	小林清次郎	山形県
83	200101	−	254	−	山形系	小林誠太郎	山形県
84	200101	−	255	−	山形系	小林忠次郎	山形県
85	200101	−	256	−	山形系	鈴木昭二	宮城県
86	200101	−	257	−	山形系	鈴木昭二	宮城県
87	200101	−	234	−	蔵王系	秋山一雄	山形県
88	200101	−	235	−	蔵王系	秋山一雄	山形県
89	200101	−	236	−	蔵王系	秋山一雄	山形県
90	200101	−	237	−	蔵王系	阿部進矢	山形県
91	200101	−	238	−	蔵王系	阿部常吉	山形県
92	200101	−	239	−	蔵王系	石山和夫	山形県
93	200101	−	240	−	蔵王系	大宮正安	山形県
94	200101	−	241	−	蔵王系	岡崎幾雄	山形県
95	200101	−	242	−	蔵王系	岡崎直志	山形県
96	200101	−	243	−	蔵王系	斉藤健男	山形県
97	200101	−	244	−	蔵王系	斉藤松助	山形県
98	200101	−	245	−	蔵王系	田中敦夫	山形県
99	200101	−	1	−	津軽系	奥瀬鉄則	青森県
100	200101	−	2	−	津軽系	奥瀬鉄則	青森県
101	200101	−	3	−	津軽系	奥瀬鉄則	青森県
102	200101	−	4	−	津軽系	奥瀬鉄則	青森県
103	200101	−	5	−	津軽系	小島俊幸	青森県
104	200101	−	6	−	津軽系	佐藤善二	青森県
105	200101	−	7	−	津軽系	佐藤善二	青森県
106	200101	−	8	−	津軽系	佐藤佳樹	青森県
107	200101	−	9	−	津軽系	島津誠一	青森県
108	200101	−	10	−	津軽系	長谷川辰雄	青森県
109	200101	−	11	−	津軽系	村元文雄	青森県
110	200101	−	12	−	津軽系	毛利専蔵	青森県
111	200101	−	13	−	津軽系	盛秀太郎	青森県
112	200101	−	194	−	土湯系	阿部一郎	福島県
113	200101	−	195	−	土湯系	阿部計英	福島県
114	200101	−	196	−	土湯系	阿部シナ	福島県
115	200101	−	197	−	土湯系	阿部勝英	福島県
116	200101	−	198	−	土湯系	阿部勝英	福島県
117	200101	−	199	−	土湯系	阿部広史	福島県
118	200101	−	200	−	土湯系	阿部広史	福島県

no.	標本番号					系統別	製作者氏名	製作地
119	200101	−	201	−		土湯系	阿部広史	福島県
120	200101	−	202	−		土湯系	阿部広史	福島県
121	200101	−	205	−		土湯系	今泉源治	福島県
122	200101	−	206	−		土湯系	今泉源治	福島県
123	200101	−	207	−		土湯系	今泉源治	福島県
124	200101	−	208	−		土湯系	今泉源治	福島県
125	200101	−	209	−		土湯系	今泉源治	福島県
126	200101	−	211	−		土湯系	小幡敏夫	福島県
127	200101	−	212	−		土湯系	斉藤弘道	福島県
128	200101	−	214	−		土湯系	佐久間虎吉(二代)	福島県
129	200101	−	215	−		土湯系	佐藤久弥	福島県
130	200101	−	216	−		土湯系	佐藤佐志馬	福島県
131	200101	−	203	−		土湯系	谷地広志	福島県
132	200101	−	16	−		南部系	坂下隆男	岩手県
133	200101	−	17	−		南部系	佐藤英吉	岩手県
134	200101	−	18	−		南部系	佐藤一夫	岩手県
135	200101	−	20	−		南部系	佐藤忠雄	岩手県
136	200101	−	19	−		南部系	煤孫実太郎	岩手県
137	200101	−	21	−		南部系	煤孫実太郎	岩手県
138	200101	−	22	−		南部系	高橋金三	岩手県
139	200101	−	23	−		南部系	高橋金三	岩手県
140	200101	−	143	−		肘折系	奥山庫治	山形県
141	200101	−	144	−		肘折系	奥山庫治	山形県
142	200101	−	145	−		肘折系	佐藤重之助	山形県
143	200101	−	146	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
144	200101	−	147	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
145	200101	−	148	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
146	200101	−	149	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
147	200101	−	150	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
148	200101	−	151	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
149	200101	−	152	−	1～3	肘折系	佐藤昭一	宮城県
150	200101	−	153	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
151	200101	−	154	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
152	200101	−	155	−		肘折系	佐藤昭一	宮城県
153	200101	−	156	−		肘折系	佐藤巳之助	宮城県
154	200101	−	157	−		鳴子系	秋山忠男	宮城県
155	200101	−	158	−		鳴子系	五十嵐勇	宮城県
156	200101	−	262	−		鳴子系	伊豆護	山形県
157	200101	−	159	−		鳴子系	伊藤松一	宮城県
158	200101	−	160	−		鳴子系	伊藤松一	宮城県
159	200101	−	161	−		鳴子系	伊藤松三郎	宮城県
160	200101	−	162	−		鳴子系	伊藤松三郎	宮城県
161	200101	−	163	−		鳴子系	大沼君子	宮城県
162	200101	−	164	−		鳴子系	大沼健吾	宮城県
163	200101	−	165	−		鳴子系	大沼健三郎	宮城県
164	200101	−	166	−		鳴子系	大沼力	宮城県
165	200101	−	167	−		鳴子系	大沼秀雄	宮城県
166	200101	−	168	−		鳴子系	岡崎才吉	宮城県
167	200101	−	169	−		鳴子系	岡崎仁治	宮城県
168	200101	−	170	−		鳴子系	岡崎斉一	宮城県
169	200101	−	171	−		鳴子系	岡崎斉司	宮城県
170	200101	−	172	−		鳴子系	岡崎斉司	宮城県
171	200101	−	173	−		鳴子系	岡崎斉司	宮城県
172	200101	−	174	−		鳴子系	岡崎斉司	宮城県
173	200101	−	175	−		鳴子系	岸正規	宮城県
174	200101	−	176	−		鳴子系	熊谷正	宮城県
175	200101	−	177	−		鳴子系	後藤希三	宮城県
176	200101	−	178	−		鳴子系	小山今朝記	宮城県
177	200101	−	179	−		鳴子系	桜井昭二	宮城県

no.	標本番号					系統別	製作者氏名	製作地
178	200101	−	180	−		鳴子系	桜井昭二	宮城県
179	200101	−	181	−		鳴子系	桜井昭二	宮城県
180	200101	−	182	−		鳴子系	佐藤実	宮城県
181	200101	−	183	−		鳴子系	佐藤実	宮城県
182	200101	−	184	−		鳴子系	高橋正吾	宮城県
183	200101	−	186	−		鳴子系	高橋武男	宮城県
184	200101	−	187	−		鳴子系	高橋松子	宮城県
185	200101	−	188	−		鳴子系	高橋盛雄	宮城県
186	200101	−	189	−		鳴子系	早坂せつ子	宮城県
187	200101	−	190	−		鳴子系	松田初見	宮城県
188	200101	−	191	−		鳴子系	遊佐福寿	宮城県
189	200101	−	192	−		鳴子系	遊佐福寿	宮城県
190	200101	−	263	−		鳴子系	遊佐福寿	宮城県
191	200101	−	193	−		鳴子系	遊佐恭雄	宮城県
192		−		−		鳴子系	松田三夫	宮城県
193	200101	−	14	−		木地山系	阿部平四郎	秋田県
194	200101	−	15	−		木地山系	小椋久太郎	秋田県
195	200101	−	261	−		木地山系	小野寺正徳	秋田県
196	200101	−	107	−		弥治郎系	井上四郎	福島県
197	200101	−	108	−		弥治郎系	井上ゆき子	福島県
198	200101	−	109	−		弥治郎系	井上ゆき子	福島県
199	200101	−	110	−		弥治郎系	大泉清見	宮城県
200	200101	−	111	−	1〜7	弥治郎系	大泉清見	宮城県
201	200101	−	112	−		弥治郎系	大泉清見	宮城県
202	200101	−	113	−		弥治郎系	岡崎昭一	宮城県
203	200101	−	114	−		弥治郎系	鎌田うめ子	宮城県
204	200101	−	115	−		弥治郎系	鎌田うめ子	宮城県
205	200101	−	116	−		弥治郎系	鎌田孝市	宮城県
206	200101	−	117	−		弥治郎系	鎌田孝市	宮城県
207	200101	−	118	−		弥治郎系	鎌田文市	宮城県
208	200101	−	119	−		弥治郎系	鎌田文市	宮城県
209	200101	−	120	−		弥治郎系	国分栄一	宮城県
210	200101	−	121	−		弥治郎系	国分栄一	宮城県
211	200101	−	122	−		弥治郎系	国分栄一	宮城県
212	200101	−	123	−		弥治郎系	国分栄一	宮城県
213	200101	−	124	−		弥治郎系	国分栄一	宮城県
214	200101	−	140	−		弥治郎系	新山久志	宮城県

1遠刈田系	87点
2弥治郎系	25点
3鳴子系	39点
4土湯系	20点
5肘折系	16点
6山形系	12点
7蔵王系	12点
8津軽系	13点
9南部系	8点
10木地山系	3点
11作並系	3点
計	238点

⑵ 館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」



◆展示意図

縄文遺跡の宝庫として知られる松戸であるが、実は古墳時代の遺跡も多く見つかっている。異様とも言える巨大な墓が造られた古墳時代、その頃の松戸ではどのような歴史が展開したのであろうか。本展示では、市内の発掘調査で明らかになった当時の集落・古墳の様相や、実際に出土した土器・埴輪などの特徴を紹介するなかで、その実態に迫った。同時に、地元発見の遺跡・遺物を身近に感じ、古墳時代の歴史を学び、体感する場とする意図で本展示を実施した。

◆主　　催　松戸市立博物館（企画担当　小林　孝秀〈当館学芸員〉）
◆後　　援　（公財）松戸市文化振興財団
◆協　　力　新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社
◆会　　期　平成29年７月15日（土）～９月10日（日）（開催日数50日間）
◆会　　場　企画展示室
◆観覧者数　3,883人
◆観 覧 料　無料
◆印 刷 物

ポスター	Ｂ２判	300枚
チラシ	Ａ４判	10,000枚
展示品目録	Ａ４判（館で製作）	800部
こどもクイズ（こどもワークシート）・Ａ５判（館で製作）		2,000部
こどもクイズこたえＡ４判（館で製作）		1,200枚

◆関連企画

・「古墳学びプログラム」

（こども・家族向け展示関連プログラム／会場：企画展示室・図書閲覧コーナー）

対 象 者　一般（こどもから大人まで）
開催月日　平成29年７月15日（土）～９月10日（日）
参加人数　①②④集計なし　③1,111名
内　　容　①古墳クイズ（こどもワークシート）
（展示品をじっくり観察しながらクイズに挑戦。場所：企画展示室）
②古墳パズルにチャレンジ
（古墳文化をパズルで体感。場所：企画展示室）
③ぬりえ＆しおりづくり
（古墳時代をモチーフにしたぬりえ。パウチ加工してオリジナルしおりをつくる。
場所：企画展示室前ロビー・図書閲覧コーナー）
④古墳衣装の試着体験
（古墳ファッションを楽しもう。写真を撮って見学の記念に。場所：企画展示室）

・「820（ハニワ）の日プロジェクト　はにわグッズをつくろう」

対 象 者　一般（こどもから大人まで）
開催月日　平成29年８月20日（日）　13時30分～（所要時間は約20分）
講　　師　小林　孝秀（当館学芸員）・鵜沼　豊（当館学習支援専門員）
参加人数　37人
内　　容　展示資料の埴輪をモチーフとした粘土製品に色を塗り、磁石を貼りつけてオリジナルマグネットを製作。

・講演会／歴史を語る「ヤマタイ国時代の南関東―古墳時代のはじまり頃の東西交流―」

対 象 者　一般

開催月日　平成29年８月19日（土）13時00分～15時00分
講　　師　西川　修一氏（日本考古学協会員）
参加人数　74名

・学芸員講演会「松戸の古墳をとらえなおす」（会場：講堂）
対 象 者　一般
開催月日　平成29年９月３日（日）13時00分～15時00分
講　　師　小林　孝秀（当館学芸員）
参加人数　85名

・「ギャラリートーク（展示解説会）」
対 象 者　一般（こどもから大人まで）
開催月日　平成29年７月23日（日）、8月６日（日）、９月２日（土）
講　　師　小林　孝秀（当館学芸員）
参加人数　延べ80人

◆展示品目録

１．古墳時代の始まりと松戸　〔３世紀・４世紀〕※他に弥生時代中・後期の展示あり

⑴　弥生土器は何を語るのか

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
1	弥生土器片【やよいどきへん】	大谷口遺跡	弥生時代中期	6
2	甕【かめ】	立出し遺跡	弥生時代中期	1
3	青銅製品【せいどうせいひん】	立出し遺跡	弥生時代中期	1
4	甕【かめ】	北台遺跡	弥生時代後期	1
5	甕【かめ】	稔台遺跡	弥生時代後期	1
6	壺片【つぼへん】	上本郷七畝割遺跡（長者屋敷遺跡）	弥生時代後期	1

⑵　姿を現した邪馬台国時代のムラ

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
7	叩き調整甕【たたきちょうせいがめ】	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
8	有段高坏【ゆうだんたかつき】	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
9	受け口状口縁台付甕【うけぐちじょうこうえんだいつきがめ】	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
10	加飾壺片【かしょくつぼへん】	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
11	刻み口縁台付甕【きざみこうえんだいつきがめ】	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1

⑶　「方形周溝墓」の受容―松戸で最初の「古墳」か？―

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
12	複合口縁壺【ふくごうこうえんつぼ】	富山遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
13	単口縁壺【たんこうえんつぼ】	富山遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
14	壺【つぼ】	富山遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
15	壺片【つぼへん】	富山遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	1
16	単口縁壺【たんこうえんつぼ】	溜ノ上遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	2

2.巨大古墳が造られた頃の松戸 〔5世紀〕

(1) 中期の古墳群を掘る―河原塚古墳群の全貌―

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
17	直刀【ちょくとう】	河原塚1号墳	古墳時代中期	1
18	鉄剣【てっけん】	河原塚1号墳	古墳時代中期	1
19	鹿角装刀子【ろっかくそうとうす】	河原塚1号墳	古墳時代中期	2
20	鉄鏃【てつぞく】	河原塚1号墳	古墳時代中期	9
21	ガラス製小玉【がらすせいこだま】	河原塚1号墳	古墳時代中期	10
22	不明鉄製品【ふめいてつせいひん】	河原塚1号墳	古墳時代中期	2
23	鉄製鍬先【てつせいくわさき】	河原塚1号墳	古墳時代中期	1
24	須恵器 瓶【すえき はそう】	河原塚1号墳	古墳時代中期	1
25	須恵器 瓶【すえき はそう】	河原塚2号墳	古墳時代中期	1
26	壺【つぼ】	河原塚4号墳	古墳時代中期	1
27	坏【つき】	河原塚4号墳	古墳時代中期	1

(2) 古墳時代の生活革命―渡来文化の波、松戸へ―

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
28	甑【こしき】	殿平賀向山遺跡	古墳時代中期	1
29	甕【かめ】	殿平賀向山遺跡	古墳時代中期	1
30	支脚(坩の転用)【しきゃく(かんのてんよう)】	殿平賀向山遺跡	古墳時代中期	1
31	鋳造鉄斧【ちゅうぞうてっぷ】	行人台遺跡	古墳時代中期	1
32	多孔式甑【たこうしきこしき】	行人台遺跡	古墳時代中期	1
33	朝鮮半島系土器片【ちょうせんはんとうけいどきへん】	行人台遺跡	古墳時代中期	4

3.古墳時代の終わりと松戸 〔6世紀・7世紀〕

(1) 小金1号墳の埴輪が語るもの

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
34	円筒埴輪【えんとうはにわ】	小金1号墳	古墳時代後期	1
35	円筒埴輪【えんとうはにわ】	小金1号墳	古墳時代後期	2
36	線刻をもつ埴輪片【せんこくをもつはにわへん】	小金1号墳	古墳時代後期	3
37	線刻をもつ埴輪片【せんこくをもつはにわへん】	小金1号墳	古墳時代後期	3
38	線刻をもつ埴輪片【せんこくをもつはにわへん】	小金1号墳	古墳時代後期	1

(2) 地中に埋もれた栗山古墳群の全貌

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
39	馬形埴輪頭部【うまがたはにわとうぶ】	伝栗山古墳	古墳時代後期	1
40	人物埴輪頭部【じんぶつはにわとうぶ】	伝栗山古墳	古墳時代後期	1
41	円筒埴輪【えんとうはにわ】	伝栗山古墳	古墳時代後期	1
42	須恵器 提瓶【すえき ていへい(さげべ)】	伝栗山古墳	古墳時代後期	1
43	人物埴輪腕部片【じんぶつはにわうでぶへん】	伝栗山古墳	古墳時代後期	1
44	馬形埴輪【うまがたはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1
45	家形埴輪【いえがたはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1
46	女子人物埴輪【じょしじんぶつはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	2
47	(参考資料)土偶【(さんこうしりょう)どぐう】	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	1
48	男子人物埴輪【だんしじんぶつはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1
49	大刀形埴輪【たちがたはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1
50	靫形埴輪【ともがたはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1
51	朝顔形埴輪【あさがおがたはにわ】	栗山古墳群(立出し遺跡)	古墳時代後期	1

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
52	形象埴輪片【けいしょうはにわへん】	栗山古墳群 （立出し遺跡）	古墳時代後期	7
53	須恵器 提瓶【すえき ていへい（さげべ）】	栗山古墳群 （立出し遺跡）	古墳時代後期	1
54	須恵器 平瓶【すえき へいへい（ひらべ）】	栗山古墳群 （立出し遺跡）	古墳時代後期	1

⑶ 土器が語る地域間交流

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
55	坏（有段口縁坏）【つき（ゆうだんこうえんつき）】	大谷口遺跡	古墳時代後期	2
56	坏（比企型坏）【つき（ひきがたつき）】	大谷口遺跡	古墳時代後期	1
57	甕（常総型甕）【かめ（じょうそうがたがめ）】	大谷口遺跡	古墳時代後期	1

⑷ 竹ヶ花古墳の埋葬施設―横穴式石室の可能性―

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
58	鉄器片【てっきへん】	竹ヶ花古墳	古墳時代後期	6

⑶ 企画展「本土寺と戦国の社会」

◆展示意図

鎌倉時代創建の日蓮宗の名刹本土寺には、数多くの文化財が残されている。今回の展示は本土寺の全面的な協力を仰ぎ、その濫觴から戦国時代までの歴史を辿った。同時に戦国時代の市域とその周辺の状況につき、職能民（職人や芸能民）の姿や打ち続く戦争の実態他の切り口で、多方面から借用した資料を活用して提示した。

◆主　　催　松戸市立博物館（企画担当　中山　文人〈当館学芸員〉）
◆後　　援　（公財）松戸市文化振興財団
◆協　　力　新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社
◆会　　期　平成29年９月23日（土）～11月12日（日）（開催日数44日間）
◆会　　場　企画展示室
◆観覧者数　4,153人
◆観 覧 料　一般　300円（団体240円／常設展共通500円）
　高校・大学生　150円（団体100円／常設展共通250円）
　中学生以下　無料
◆印 刷 物　ポスター（Ｂ２）　700部
　ポスター（Ｂ３）　410部
　チラシ（Ａ４）　20,000部
　展示図録　1,500部（88ページ）
　展示資料リスト　3,000部（館で印刷）
　史料釈文　2,000部（同上）



◆関連企画

・企画展記念講演会「本土寺の歴史と寺宝」（会場：講堂）
　対 象 者　一般
　開催月日　平成29年10月７日（土）
　講　　師　都守　基一氏（日蓮仏教研究所主任研究員）
　参加人数　85人

・学芸員講演会「本土寺と戦国の社会」（会場：講堂）
　対 象 者　一般
　開催月日　平成29年10月22日（日）
　講　　師　中山　文人（当館学芸員）
　参加人数　81人

・歴史を語る　第３回「戦国初期の松戸地域」（会場：講堂）
　対 象 者　一般
　開催月日　平成29年11月11日（土）
　講　　師　長塚　孝氏（馬の博物館学芸部長）
　参加人数　81人

・展示解説会（中山文人）
　対 象 者：一般
　開催月日：平成29年９月23日（土）・30日（土）・10月１日（日）・14日（土）・29日（日）・11月12日（日）
　講　　師：中山　文人（当館学芸員）
　参加人数：125人

◆展示資料リスト

Ⅰ　本土寺のはじまりと寺宝

No.	名称	時　代	所　蔵
1	日蓮聖人像	明応５(1496)年２月１日	本土寺
2	日蓮聖人曼荼羅本尊(二十枚継本尊)	文永10(1273)年ヵ	同上
3	念珠(日蓮聖人御所用)	鎌倉時代	同上
4	袈裟(日蓮聖人御所用)	鎌倉時代	同上
5	日蓮聖人曼荼羅本尊(一念三千本尊)	鎌倉時代	同上
6	日蓮聖人曼荼羅本尊(朗師加判)	鎌倉時代	同上
7	日蓮聖人書状(大学三郎御書)	建治元(1275)年７月２日	同上
8	日蓮聖人書状(諸人御返事)	弘安元(1278)年３月21日	同上
9	日蓮聖人書状(富城殿御返事)	弘安２(1279)年ヵ11月25日	同上
10	十二因縁抄	元亨２(1322)年１月７日	同上
11	立正安国論(平賀本録内御書一)	文応元(1260)年７月16日 (大永7-1527-年８月２日写)	同上
12	青磁皿 ※以下14まで思井堀之内遺跡出土資料	13世紀後半～14世紀	千葉県教育委員会
13	蓬莱鏡	13世紀後半～14世紀ヵ	同上
14	白磁皿	13世紀後半～14世紀ヵ	同上
15	菊花双雀鏡 ※以下18まで西平井根郷遺跡出土資料	鎌倉時代前期	流山市教育委員会
16	鏡箱	鎌倉時代前期	同上
17	鉄 鋏	鎌倉時代前期	同上
18	短刀	鎌倉時代前期	同上
19	日実上人曼荼羅本尊	貞治４(1365)年３月	本土寺
20	日願上人曼荼羅本尊	応永11(1404)年	同上
参　考 資料１	悉曇字記聞書(写真)	天文５(1536)年写	西教寺

Ⅱ　本土寺の戦国時代

No.	名称	時　代	所　蔵
21	銅透彫華籠	永正５(1508)年	本土寺
22	日意上人曼荼羅本尊	文明４(1472)年７月29日	同上
23	日意上人曼荼羅本尊	長禄２(1458)年正月	正法寺
24	妙法蓮華経	弘安７(1284)年３月	本土寺
25	妙法蓮華経	文明15(1483)年４月28日以前	同上
26	日蓮聖人真筆感得記	明応３(1494)年11月28日	同上
27	報恩抄(平賀本録内御書六･七)	大永８(1528)年７月４日写	同上
28	祖書三通(平賀本録内御書廿六)	大永７(1527)年５月12日写	同上
29	祖書五通(平賀本録内御書廿七)	大永８(1528)年３月28日写	同上
30	日瑞上人記銘板碑	明応８(1499)年８月	大網白里市教育委員会
参　考 資料２	永禄之旧規勝劣一致和睦之次第案文 (写真)	永禄６～７(1564～1565)年	法泉寺
31	日現上人書状	永禄２(1559)年７月11日	本土寺
32	日隆上人曼荼羅本尊	永禄３(1560)年５月25日	同上
33	三好長慶書状	(永禄6-1563-年)８月７日	本圀寺
34	日隆上人書状	(永禄6-1563-年)９月14日	同上
35	日体･日継連署書状	(永禄6-1563-年)10月３日	同上
36	松永久秀書状	(永禄7-1564-年)３月６日	同上
37	一致勝劣都鄙和睦之条目他写	永禄７(1564)年８月20日	同上
38	一致勝劣都鄙和睦条目他写	永禄７(1564)年８月20日	本土寺
39	日厳上人曼荼羅本尊	元亀４(1573)年５月23日	同上
40	高城胤則書状	天正11(1583)年８月３日	同上
41	原景家立願状	文明３(1471)年２月13日	同上
42	高城胤辰判物	天正４(1576)年４月21日	同上
43	高城氏制札	文明２(1470)年５月朔日	同上
44	上杉輝虎家臣制札	永禄９(1566)年２月	同上
45	徳川家康朱印状	天正19(1591)年11月	同上

No.	名称	時　代	所　蔵
46	青白磁合子 ※以下67まで小西城跡出土資料	13～14世紀	千葉県教育委員会
47	青白磁渦文梅瓶	13～14世紀	同上
48	青磁蓮弁文碗	14世紀前半	同上
49	青磁蓮弁文折縁皿	14～15世紀	同上
50	青磁鎬文折縁盤	14～15世紀	同上
51	青磁稜花皿	15世紀後半	同上
52	白磁小皿	15世紀後半	同上
53	染付小皿	16世紀初頭	同上
54	染付折縁輪花大皿	16世紀	同上
55	灰釉水注(瀬戸・美濃)	14～15世紀	同上
56	祖母懐茶壺(瀬戸・美濃)	14～15世紀	同上
57	鉄釉仏華瓶(瀬戸・美濃)	14～15世紀	同上
58	灰釉腰折皿(瀬戸・美濃)	15世紀後半	同上
59	天目茶碗(瀬戸・美濃)	15世紀	同上
60	錆釉擂鉢(瀬戸・美濃)	15世紀後半	同上
61	大甕(常滑)	14世紀後半、15世紀後半、16世紀前半ヵ	同上
62	かわらけ	15世紀後半～16世紀	同上
63	擂鉢(在地産)	15世紀後半ヵ	同上
64	内耳土鍋(在地産)	15世紀前半ヵ	同上
65	石硯	中世	同上
66	宝篋印塔 塔身部 反花座	14～15世紀ヵ	同上
67	五輪塔 空風輪 火輪 水輪 地輪	15～16世紀	同上

Ⅲ　本土寺過去帳と職人

No.	名称	時　代	所　蔵
68	本土寺過去帳(天正本・複製)	天正11(1583)年書写	松戸市立博物館 (原資料本土寺蔵)
69	縫箔　黒茶片身替鉄線唐草薄扇散模様	安土桃山時代(17世紀)	東京国立博物館
70	能狂言図巻物(翁)	江戸時代後期	国立能楽堂
71	能楽図絵二百五十番(隅田川)	明治32(1899)年	同上
72	能楽百番(現在七面)	大正11～14(1922～1925)年	同上
73	羽口	中世	松戸市立博物館
74	鉄滓	中世	同上
75	鉄砲玉	戦国時代末期	同上
76	かわらけ(溶銅付着・溶鉄付着)	戦国時代末期ヵ	同上
77	火縄銃	安土桃山時代 (16世紀末～17世紀初頭ヵ)	長浜市長浜城歴史博物館
78	短刀	天正期(1573～1592年)	同上
79	直槍	安土桃山時代	同上
80	大身槍	安土桃山時代	同上
81	十文字槍	安土桃山時代～江戸時代初期	同上
82	十文字槍押形(伝加藤清正所持)	天保年間(1830～1844年)	同上
83	短刀	桃山時代 (慶長12～13-1607～1608 - 年ヵ)	同上
84	長篠合戦図屏風	江戸時代後期ヵ	同上
85	革札	14～15世紀ヵ	松戸市立博物館
86	革札(復元資料)	現代	同上
87	鉄札	中世	同上
88	紺糸威最上胴	16世紀	千葉県立中央博物館 大多喜城分館
89	陣羽織 茶地題目文字模様紙子	安土桃山時代(16世紀)	東京国立博物館
90	鉄錆地六十二間小星兜	戦国時代(15～16世紀)	千葉県立中央博物館 大多喜城分館
91	御貸具足	江戸時代	同上
92	甕(渥美) ※以下125まで中馬場遺跡出土資料	13世紀	柏市教育委員会

No.	名称	時　代	所　蔵
93	甕(常滑)	13～16世紀	同上
94	壺(常滑)	中世後期	同上
95	捏鉢(常滑)	13～16世紀	同上
96	天目茶碗(瀬戸・美濃)	15～17世紀	同上
97	梅瓶(瀬戸・美濃)	14世紀	同上
98	花瓶(瀬戸・美濃)	13世紀ヵ	同上
99	平碗(瀬戸・美濃)	14～15世紀	同上
100	腰折皿(瀬戸・美濃)	15世紀後半	同上
101	香炉(瀬戸・美濃)	中世後期	同上
102	茶壺(瀬戸・美濃／祖母懐壺)	14～15世紀	同上
103	卸皿(瀬戸・美濃)	14～15世紀	同上
104	卸目付大皿(瀬戸・美濃)	15世紀中頃	同上
105	折縁深皿(瀬戸・美濃)	14世紀末～15世紀前半	同上
106	縁釉小皿(瀬戸・美濃)	14世紀末～15世紀前半、15世紀中頃	同上
107	双耳小壺(瀬戸・美濃)	15世紀	同上
108	丸碗(瀬戸・美濃)	17世紀ヵ	同上
109	縁釉挟み皿(瀬戸・美濃)	15世紀末～16世紀初め	同上
110	擂鉢(瀬戸・美濃)	17世紀ヵ	同上
111	徳利(瀬戸・美濃)	17世紀	同上
112	鉢(丹波)	17世紀ヵ	同上
113	丸碗(黄瀬戸)	17世紀ヵ	同上
114	鉄絵皿(志野)	17世紀ヵ	同上
115	水指(志野)	17世紀	同上
116	筒型碗(志戸呂)	17世紀	同上
117	黒茶碗(織部)	17世紀	同上
118	碗(唐津)	17世紀ヵ	同上
119	縁釉挟み皿(唐津)	17世紀ヵ	同上
120	擂鉢(在地産)	中世後期	同上
121	内耳土鍋(在地産)	中世後期	同上
122	かわらけ	中世後期	同上
123	壺	中世	同上
124	火鉢(在地産)	17世紀ヵ	同上
125	香炉(在地産)	17世紀ヵ	同上

Ⅳ　大動乱と小さな襲撃事件

No.	名称	時　代	所　蔵
126	北条氏康書状	(永禄7-1564-年) 1月4日	松戸市立博物館
127	北条家朱印状	永禄7 (1564)年5月10日	同上
128	今川氏真書状	(永禄11-1568-年)12月16日	同上
129	今川氏真感状	永禄12(1569)年4月20日	同上
130	北条氏政判物	(永禄11-1568-年)12月17日	早稲田大学図書館
131	足利義氏書状	(永禄12-1569-年) 2月13日	個人蔵 (古河市歴史博物館寄託)
132	織田信長朱印状	永禄10(1567)年11月	松戸市教育委員会
133	千葉胤富書状	(永禄12-1569-年) 2月29日	松戸市立博物館
134	北条氏政書状	(永禄12-1569-年) 8月18日	千葉市立郷土博物館
135	北条氏忠判物	永禄13(1570)年5月22日	松戸市立博物館
136	北条氏忠朱印状	(元亀2-1571-年ヵ) 9月26日	同上
137	北条家朱印状	永禄6 (1564)年4月晦日	同上
138	北条家朱印状	元亀2 (1571)年4月10日	同上
139	北条家朱印状	永禄8 (1565)年2月2日	同上
140	北条家朱印状	(永禄8-1565-年) 2月10日	同上

⑷ 学習資料展「昔のくらし探検」

◆展示意図

学習資料展「昔のくらし探検」は、私たちの便利な生活がどのように形づくられてきたか、そのなかで失われたかつての生活における技術、知恵などを子どもたちに伝えようと開催した。今から80年程前の市内の農家のくらしを出発点にして、衣食住の様々な生活の変化を探検しながら、現在の生活に至る身近な生活の歴史を紹介した。



◆主　　催　松戸市立博物館(企画担当　青木　俊也〈当館学芸員〉)
◆会　　期　平成30年１月13日(土)～３月25日(日)(開催日数59日間)
◆会　　場　企画展示室
◆観覧者数　7,519人
　　松戸市内小学校　38校見学
　　松戸市外小学校　11校見学
◆観 覧 料　無料
◆印 刷 物　チラシ　　Ａ４判　　10,000枚(委託製作)
　　ポスター　　Ｂ２判　　10枚(館で印刷)
　　探検手帳　　Ａ３判４つ折　　500枚(館で印刷)

◆関連企画

・教員向け放課後解説会（会場：企画展示室）
　対 象 者　小学校第３学年担当教員
　開催月日　平成30年１月12日(金)　15:30～17:30
　講　　師　青木　俊也(当館学芸員)
　参加人数　11人
　内　　容　本展覧会に見学を計画している小学校教員に対して、展示室において学校見学のポイントを解説するとともに、予察として展示計画書の作成を行った。

・小学生学芸員による展示解説会（会場：企画展示室）
　対 象 者　学習資料展観覧者
　開催月日　平成30年１月27日(土)
　　①午後２時00分～午後２時30分　　②午後３時00分～午後３時30分
　講　　師　小学生学芸員　６名
　参加人数　①26人　②31人
　内　　容　本展覧会において、こども体験教室「米づくりと展示づくり―小学生学芸員になろう―」に参加した小学生学芸員が制作した米作りの一連のパネルを展示している。本展示解説会では、小学生がこれらのパネルに基づいて米づくりの解説を行った。

◆展示資料リスト

〈1〉住まう

（1）農家の住まい

資料名	
農家（模型１/20）	農家の間取り（模型１/20）

〈2〉食べる

（1）かまど

資料名				
かまど（2点）（鋳物、模型1/1）	まき	火吹き竹（２点）	十能	火挟み
火消し壺	七輪（２点）	渋うちわ（２点）	炭入れ	鉄瓶

（2）ご飯を炊く

資料名				
米櫃	一升枡（２点）	五合枡（２点）	一合枡	一斗枡
斗かき	米研ぎ桶	あげざる	羽釜（２点）	飯櫃（２点）
杓文字	飯櫃入れ			

（3）おかずを煮炊きする

資料名				
鉄鍋	銅行平鍋	杓子	焼き網	焙烙
せいろ	すり鉢	すりこ木	おろし金（金属製）	おろし金（陶製）
かつお節削り	脚付きまな板	杓文字掛け	あげざる	酒徳利
醤油徳利				

（4）食卓

資料名				
普段のお膳	飯茶碗（２点）	汁椀（２点）	四つ椀	行事のお膳
ちゃぶ台（２点）	土瓶	茶碗（４点）		

（5）水まわりのくらし

資料名				
井戸車	釣瓶桶	手押しポンプ	手桶	水瓶
柄杓	流し台	洗い桶		

（6）食べ物の保存

蝿帳（２点）	甕（３点）	漬け物樽（２点）		

〈3〉着る

（1）着物

資料名				
野良着	女の単衣の着物	女の袷の着物と羽織	男の単衣の着物	男の袷の着物と羽織
男子の袷の着物と羽織		男子の単衣の着物		

（2）機織り

資料名			
高機	綿繰り	糸車	手織りの袋

（3）裁縫

資料名				
針箱	くけ台	尺差し	裁ち板	座布団

（4）洗濯

資料名				
たらい	金だらい	洗濯板	洗濯石鹸	火のし
鏝	炭火アイロン	張り板		

〈4〉くらす

（1）冬のくらし

資料名				
火鉢	五徳	火箸	灰ならし	鉄瓶
炭おこし	十能（炭運び）	炭入れ	やぐら炬燵（２点）	行火
湯たんぽ（陶製）	湯たんぽ（ブリキ製）	掻い巻き布団		

（2）夏のくらし

資料名				
蚊帳	蚊遣りぶた	うちわ	すだれ屏風	すだれ

（3）明かり

資料名				
燭台	行灯	ランプ（2点）	電灯	手燭
がんどう	小田原提灯			

（4）しまう

資料名				
行李（2点）	箪笥	茶箱	衣桁	布団風呂敷
鏡台				

（5）掃除

資料名				
座敷ぼうき	庭ぼうき	ぞうきん	バケツ	はたき

（6）聞く・見る

資料名	
蓄音機	ラジオ

〈5〉耕す

資料名				
下肥桶	天秤棒	肥柄杓	万能	平鍬
えぶり（しろならし）	田んぼ(模型)	田下駄	田植え定規	除草機
踏み車	足踏み脱穀機	唐箕	もみならし	万石通し
俵じょうご	米俵	箕		

⑸ ミニ写真展

◆展示意図　当館に移管された松戸市役所広報課旧蔵の写真を常設展示室内で順次公開する。
◆主　　催　松戸市立博物館（企画担当　柏木　一朗〈当館学芸員〉）
◆会　　期　①平成29年４月１日（土）～６月30日（金）
　　②同　　７月１日（土）～９月30日（土）
　　③同　　10月１日（日）～12月27日（水）
　　④平成30年１月５日（金）～３月31日（土）
◆会　　場　常設展示室
◆観覧者数　単独として計上していない。
◆観 覧 料　常設展示観覧料に含む。
◆展示資料
①「街角編③」

	名　称	撮影時期
1	平潟遊郭跡	昭和60年（1985）
2	納屋河岸	昭和60年（1985）
3	松戸駅西口デッキ	昭和61年（1986）
4	角町交差点	昭和60年（1985）
5	角町から松戸駅方面を望む	昭和60年（1985）
6	松戸駅西口デッキ/電話ボックス	昭和61年（1986）
7	大橋／胡籙神社	昭和60年（1985）
8	春木川	昭和60年（1985）
9	五香駅前踏切	昭和60年（1985）５月22日
10	松戸駅東口入口付近	昭和61年（1986）
11	松戸市立図書館前／松戸神社祭礼	昭和61年（1986）10月
12	専修大学松戸高校前／七草マラソン	昭和62年（1987）１月７日
13	馬橋／長津川改修工事	昭和62年（1987）
14	馬橋／万満寺稚児行列	昭和62年（1987）５月31日
15	幸田第一公園	昭和62年（1987）
16	常盤平／日本の道100選顕彰碑除幕式	昭和63年（1988）
17	坂川/松戸神社前	昭和63年（1988）10月30日

②「街角編④」

	名　称	撮影時期
1	千駄堀/ザリガニ捕り	昭和59年（1984）７月
2	五香/野馬除けの土手	昭和59年（1984）７月
3	新松戸/秋の交通安全運動	昭和59年（1984）９月24日
4	松戸駅西口「一平橋」/第11回松戸まつり	昭和59年（1984）10月６日
5	常盤平/第15回ときわ平さくら祭り	昭和60年（1985）４月６日
6	常盤平/第15回ときわ平さくら祭り	昭和60年（1985）４月６日
7	北小金/本土寺のあじさい	昭和60年（1985）
8	松戸駅西口/松戸神社祭礼	昭和60年（1985）10月13日
9	馬橋/馬橋駅西口駅前噴水	昭和61年（1986）
10	松戸駅東口/松戸駅東西自由通路開通式	昭和61年（1986）８月２日
11	旭町三丁目/石造物	昭和61年（1986）11月
12	常盤平/子和清水	昭和61年（1986）11月
13	小金原/若芝交差点	昭和61年（1986）11月
14	松戸駅東口/戸定邸	昭和62年（1987）12月８日
15	北松戸駅前/消防出初式	昭和63年（1988）１月８日
16	二十世紀が丘梨元町/二十世紀梨誕生の地記念碑	昭和63年（1988）３月11日
17	松戸商工会館前/松戸マラソン	昭和63年（1988）３月20日

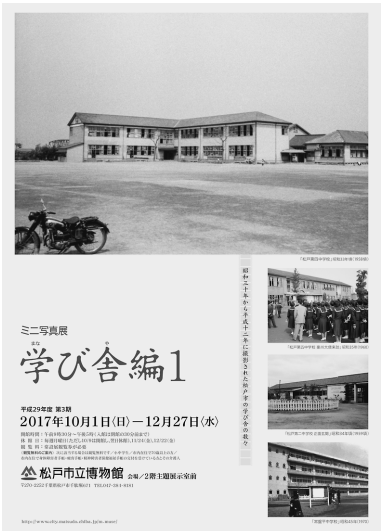
③「学び舎編①」

	名　称	撮影時期
1	松戸市立第二中学校/校庭	昭和33年(1958)頃
2	松戸市立第二中学校/玄関	昭和33年(1958)頃
3	松戸市立第二中学校/鉄筋校舎	昭和40年(1965) 5 月
4	松戸市立第四中学校/木造校舎	昭和33年(1958) 7 月
5	松戸市立第四中学校/プール	昭和38年(1963) 8 月 2 日
6	松戸市立第五中学校/校庭	昭和35年(1960)12月15日
7	松戸市立第五中学校/木造校舎	昭和35年(1960)12月15日
8	松戸市立第五中学校/木造校舎	昭和47年(1972)
9	松戸市立栗ヶ沢中学校/校舎	昭和45年(1970)
10	松戸市立常盤平中学校/校庭	昭和45年(1970)
11	松戸市立河原塚中学校/建設工事	昭和52年(1977)
12	松戸市立河原塚中学校/河原塚古墳(４号墳)	昭和61年(1986)
13	松戸市立和名ヶ谷中学校/体育館	昭和57年(1982) 9 月25日
14	松戸市立和名ヶ谷中学校/体育館	昭和57年(1982) 9 月25日
15	松戸市立根木内中学校/正門	平成２年(1990)
16	松戸市立小金北中学校/全景	平成２年(1990) 5 月31日
17	松戸市立旭町中学校/建設予定地	昭和59年(1984)

④「学び舎編②」

	名　称	撮影時期
1	松戸市立第一中学校/グランド	昭和34年(1959)頃
2	松戸市立小金中学校/木造校舎	昭和34年(1959)頃
3	松戸市立第五中学校/卒業式	昭和36年(1961) 3 月15日
4	松戸市立第五中学校/卒業式	昭和36年(1961) 3 月15日
5	松戸市立第一中学校/プール	昭和36年(1961)
6	松戸市立第一中学校/火災現場	昭和36年(1961)12月14日
7	松戸市立第一中学校/火災現場	昭和36年(1961)12月14日
8	松戸市立小金中学校/鉄筋校舎(建設中)	昭和42年(1967)
9	松戸市小金中学校/鉄筋校舎	昭和43年(1968)
10	松戸市立第六中学校/起工式	昭和43年(1968)
11	松戸市立常盤平中学校/	昭和44年(1969)
12	松戸市立常盤平中学校/	昭和44年(1969)
13	松戸市立第一中学校/木造校舎	昭和45年(1970)
14	松戸市立新松戸北中学校/体育館	昭和62年(1987)
15	松戸市立新松戸北中学校/鉄筋校舎	昭和62年(1987)
16	松戸市立新松戸北中学校/体育館	昭和62年(1987)
17	松戸市立小金南中学校/鉄筋校舎	平成元年(1989)







⑹ 第３回松戸市展選抜展

◆展示意図　松戸美術会の協力により、松戸市美術展覧会（市展）の運営に関わり指導的立場にいる会員の作品を選んで選抜展として開催した。
◆主　　催　松戸美術会・松戸市教育委員会生涯学習推進課・松戸市立博物館
◆会　　期　平成29年４月25日（火）～６月４日（日）
◆会　　場　企画展示室
◆観覧者数　館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」と同時開催のため、計上していない。
◆観 覧 料　無料
◆出品作家数　17人（日本画11、洋画６）

⑺ 松戸市小中学生優秀作品展

◆展示意図　企画展示学習資料展の機会を利用して市内小中学生の絵画やポスター等の優秀作品を展示することにより、優れた作品を鑑賞し、よさを味わう機会とした。
◆会　　期　①こども県展優秀作品展
　平成30年１月13日（土）～１月25日（木）
②松戸市小中学生観光絵画優秀作品展
　平成30年１月27日（土）～２月８日（木）
③明るい社会づくりポスター優秀作品展
　平成30年２月10日（土）～２月22日（木）
◆会　　場　企画展示室前ロビー
◆観覧者数　学習資料展「昔のくらし探検」と同時開催のため、計上していない。
◆観 覧 料　無料

3　学習支援

(1) 講演会

（各回定員：80人）

■館長講演会（会場：講堂）

演　　題　「新しい世界遺産　神宿る沖ノ島」
対 象 者　一般
開催月日　平成29年12月３日（日）
内　　容　平成29年７月世界遺産に登録された福岡県沖ノ島の歴史、遺跡の調査等に関して、映像資料を多用して講演した。
講　　師　望月　幹夫（当館館長）
参加人数　64人（全て事前応募）

■歴史を語る（会場：講堂）

第１回　演　　題　「鹿島踊りとみろく踊り：千葉県の事例を中心に」
対 象 者　一般
開催月日　平成29年６月18日（日）
内　　容　「鹿島神宮の事触れが伝えた神踊りとしての鹿島踊り」という解釈は、千葉県内の事例を見る限りでは例外が多すぎてうまく当てはまらないことが多い。千葉県の事例はむしろ祭礼を彩る「風流」としての芸能であり、近世以降に当時の流行や風俗を選択的に取り入れた結果成立したものと考える方が適切である。風流という見方を取り入れると、同じく風流芸である三匹獅子舞との関連も理解しやすい。
講　　師　俵木　悟氏（成城大学文芸学部准教授）
参加人数　20人（事前応募14人、当日申込６人）

第２回　演　　題　「ヤマタイ国時代の南関東―古墳時代のはじまり頃の東西交流―」
（※館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」関連講演会：再掲）
対 象 者　一般
開催月日　平成29年８月19日（土）
内　　容　古墳時代の開始前後における南関東の動向について、最新の考古学資料を取り上げるなかで、ヤマタイ国時代の列島史を見直すとともに、新たな古墳時代像の提示を行った。
講　　師　西川　修一氏（日本考古学協会員）
参加人数　74人（事前応募80人、当日申込４人）

第３回　演　　題　「戦国初期の松戸地域」
（※企画展「本土寺と戦国の社会」関連講演会：再掲）
対 象 者　一般
開催月日　平成29年11月11日（土）
内　　容　古文書や古記録に恵まれない戦国時代初期（15世紀後半）の東葛飾地域を、多様な史料を活用して明らかにした。
講　　師　長塚　孝氏（馬の博物館学芸部長）
参加人数　81人（事前応募99人、当日受付なし）

■企画展記念講演会（会場：講堂）

演　　題　「本土寺の歴史と寺宝」（会場：当館講堂）
（※企画展「本土寺と戦国の社会」関連講演会：再掲）
対 象 者　一般
開催月日　平成29年10月７日（土）
内　　容　日蓮宗研究者ならではの視点から、豊富な寺宝の数々が多方面での歴史の解明に貢献している様子を具体的に解説した。
講　　師　都守　基一氏（日蓮仏教研究所主任研究員）
参加人数　85人（事前応募118人、応募多数につき抽選、当日受付なし）

■松戸駅前博物館①（会場：松戸市民劇場）

演　　題　「近代日本の実録―天皇を記録化する―」
対 象 者　一般
開催月日　平成29年９月14日（木）
内　　容　アジアには皇帝や王の生涯を記録化する方法として「実録」が編纂されてきた。昭和天皇の事績を記録した『昭和天皇実録』の編修過程を通し、近代日本の実録編纂の特徴について学んだ。
講　　師　岩壁　義光氏（元宮内庁書陵部編修課長）
参加人数　102人（全て事前応募）

■松戸駅前博物館②（会場：松戸市民劇場）

演　　題　「江戸落語を聴く会」
対 象 者　一般
開催月日　平成30年１月21日（日）
内　　容　学芸員講話「お江戸の落語　江戸の寄席」ほか一噺を聞いて、落語「芝浜」を聴き、江戸の庶民文化、日本の伝統的話芸について学んだ。
講　　師　五明楼玉の輔師匠
参加人数　231人（事前応募219人、当日申込12人）

■「学芸員講演会」（博物館友の会共催）（会場：講堂・各回定員：80人）

各学芸員が専門分野について講演した。

開催月日	タイトル	講師	参加者（うち友の会会員）
平成29年 ５月28日（日）	「木地屋とこけし」	山田　尚彦	44人（20人） ※当日先着順
７月23日（日）	「富士山への信仰 ―松戸の富士講から―」	青木　俊也	66人（34人） ※当日先着順
９月３日（日）	「松戸の古墳をとらえなおす」	小林　孝秀	85人（27人） ※当日先着順
10月22日（日）	「本土寺と戦国の社会」	中山　文人	81人（24人） ※当日先着順
平成30年 ２月18日（日）	「幕末の志士と松戸」	柏木　一朗	63人（24人） ※当日先着順
３月31日（土）	「お江戸の大事件と錦絵Ⅱ かわら版が走る」	富澤　達三	60人（31人） ※当日先着順

⑵ 講座

（各回定員：30人）

■古文書を読む（近世入門編）（会場：実習室）

対 象 者　一般
開催月日　平成30年１月６日（土）～３月３日（土）の隔週土曜日（全５回）
内　　容　当館所蔵の一紙ものの近世古文書を解読し、基本的なくずし字の解説、松戸市域の近世村・江戸幕府の村落支配などについて解説を行った。
講　　師　富澤　達三（当館学芸員）
応募人数　45人（※応募多数につき抽選）
参加人数　延べ138人（①29人②27人③28人④27人⑤27人）

■古文書を読む（近世中級編Ⅰ）（会場：実習室）

対 象 者　一般
開催月日　平成29年９月９日（土）～11月４日（土）の隔週土曜日（全５回）
内　　容　「天保五年　御用留帳」（土屋亮平家文書８－19）を、22頁から24頁右まで読み進めた。第３回目から「天保九年　御触書御用留帳」（土屋亮平家文書７－２）を17頁まで読み進めた。
講　　師　和泉　清司氏（高崎経済大学名誉教授）
応募人数　47人（※応募多数につき抽選）
参加人数　延べ137人（①30人②30人③27人④24人⑤26人）

■古文書を読む（近世中級編Ⅱ）（会場：実習室）

対 象 者　一般
開催月日　平成30年１月28日（日）～３月25日（日）の隔週日曜日（全５回）
内　　容　「天保九年　御触書御用留帳」（土屋亮平家文書７－２）を17頁から最後まで読み進めた。
講　　師　出口　宏幸氏（江東区文化財主任調査員）
応募人数　47人（※応募多数につき抽選）
参加人数　延べ130人（①28人②27人③26人④24人⑤25人）

■戦国末期の史料を読む―西原文書の世界―（会場：女性センターゆうまつど）

対 象 者　一般
開催月日　平成30年１月12日（金）～３月23日（金）の隔週金曜日（全６回）
内　　容　昨年度に続き、当館所蔵「西原文書」のうち６点を解読・解説した。うち５点は受講者の研究発表後、講師が解説する形をとった。主君北条氏からの給分と家臣側の負担、郷村へ課される陣夫役の具体像、対武田氏戦争と現地の状況の３項目を中心に検討した。なお今回を以って「西原文書」全点の学習が終了した。
講　　師　中山　文人（当館学芸員）
応募人数　31人
参加人数　延べ137人（①24人②20人③21人④24人⑤24人⑥24人）

■松戸の歴史をさぐる　近現代編Ⅱ（会場：実習室）

対 象 者　一般
開催月日　平成29年11月18日（土）・12月２日（土）・12月16日（土）（全３回）
内　　容　「広報まつど」（発行当初は「松戸市報」）掲載記事を通して戦後の松戸市域の様子と戦後日本の世相を概観した。
講　　師　柏木　一朗（当館学芸員）
応募人数　30人
参加人数　延べ65人（①21人②23人③21人）

■松戸市パートナー講座

実施年月日	講座内容	主催者	派遣講師	参加人数
平成29年 4月22日(土)	離別状から松戸の江戸時代をさぐる	岩瀬ときめきクラブ	富澤　達三	37人
5月19日(金)	松戸の歴史を学ぼう	マロン会	富澤　達三	16人
6月3日(土)	結婚の儀礼	いきいきサロン	青木　俊也	24人
7月22日(土)	松戸の旧石器時代 ～縄文時代の遺跡	あらかると	大森　隆志	8人
10月29日(日)	「本土寺と戦国の社会」のオススメ	金ケ作門前町会	中山　文人	70人
11月14日(火)	遺跡から見た原始・古代の松戸	大金平4丁目町会	小林　孝秀	25人
平成30年 2月11日(日)	牧の原周辺の記憶―江戸時代にさかのぼって―	牧の原ひまわりくらぶ	富澤　達三	31人
2月18日(日)	江戸時代の幸谷村	新松戸サンライトパストラル6番街管理組合	富澤　達三	12人
3月3日(土)	明治時代の松戸	いきいきサロン南花島	柏木　一朗	30人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
平成29年 5月16日(火)	小金原の沿革・歴史 ―江戸時代の馬―	市川老荘会	富澤　達三	市川市中央公民館	40人
7月5日(水)	結婚の民俗	シニアサークル シルバー大学院	青木　俊也	鎌ケ谷市東部学習センター	52人
8月2日(水)	旧松戸宿の歴史探訪	千葉県教育研究会 松戸支会	富澤　達三 綿貫　貴 (学習支援専門員)	旧松戸宿(平潟・根本方面)	10人
9月29日(金) 10月6日(金)	撃たず首級も挙げない戦国の戦い in松戸・市川	聖徳大学オープンアカデミー公開講座	中山　文人	聖徳大学生涯学習社会貢献センター	各40人
10月20日(金)	水戸道中・松戸宿の歴史	松戸市教育委員会 生涯学習推進課 (「ご近所探訪・地域を学ぶ」連携)	富澤　達三	松戸市文化ホール講座室	30人
11月9日(木)	古墳時代東国の渡来人と渡来文化	横浜市栄区生涯学習・自主学級　古代史セミナー運営委員会	小林　孝秀	地球市民かながわプラザホール	218人
11月24日(金)	職業人に学ぶ	松戸市立栗ケ沢中学校	青木　俊也 鵜沼　豊 (学習支援専門員)	同　栗ケ沢中学校	156人
12月2日(土)	本土寺と戦国の社会	専修大学松戸中学校 (社会科講演会)	中山　文人 鵜沼　豊 (学習支援専門員)	専修大学松戸中学校	178人
平成30年 2月6日(火)	のこしたいもの つたえたいもの	松戸市立東松戸小学校	綿貫　貴 (学習支援専門員)	同　東松戸小学校	129人
2月16日(金)	社会科「古い道具と昔のくらし」 (出前授業:再掲)	松戸市立根木内小学校	山田　尚彦 綿貫　貴 (学習支援専門員)	同　根木内小学校	101人
3月9日(金)	松戸のまちと小さな神々	聖徳大学オープンアカデミー公開講座	富澤　達三	聖徳大学生涯学習社会貢献センター	28人
3月16日(金)	馬のいた暮らし	聖徳大学オープンアカデミー公開講座	富澤　達三	松戸市立博物館	31人

■出前授業

対 象 者　　市内小学校及び同中学校
開催月日　　平成29年度後半期に当該校が希望する日時
内　　容　　当該校からの要請に応え、博物館学芸員が自らの専門分野について、通常の授業の中でゲストティーチャーとして指導・支援を行った。
講　　師　　当館学芸員（当館学習支援専門員も同行）

①松戸市立根木内小学校

対 象 者　　第３学年　在籍101人　３学級
開催日時　　平成30年２月16日（金）　９時30分～14時35分
内　　容　　「三匹獅子舞ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」について、３学級それぞれ１時間ずつ同一の内容で授業を行った（授業計画では２時間扱いのうちの１時間目のみを出前授業とした。「１時間」の授業は45分授業となっている。）※指導案の一部（「本時の展開」）は、下記のとおり。
講　　師　　山田　尚彦〈当館学芸員〉、綿貫　貴〈学習支援専門員〉

指導案・「本時の展開」（HT：学級担任　GT１・２：ゲストティーチャー１・２）

過程・時間	学　習　活　動	教師の支援（○）・評価（☆）	備考（資料等）
つかむ 5分	・HT：授業開始の挨拶 ・HT：今日の学習テーマの確認 「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう～ ・HT：前に並んでいるGTの紹介。 ・GT２：挨拶と自分たちの紹介及び来館のお礼・学芸員の紹介など ・GT1：自己紹介と今日の活動説明	・HT:テーマを黒板に貼付 ・○『のびゆく松戸市』P68を ・見て感じたことを発表させる。 ○HT：必要があればメモを取ることをアドバイスする。「書く・聴く」の区別を大切にする。	・『のびゆく松戸市』・ワークシート・ノートの用意。
調べる 35分	（以下ずっとGT1） ・「獅子頭」の紹介 ・ビデオ視聴1回目 ～三匹獅子舞のようすを見てみよう 「何を見つけられるかな」 ・ビデオ視聴2回目 ～「もう一度ビデオをよく見て、思い出してみましょう。」（映像を止めながら質問形式で進める）。 ・ここで質問を受け付ける。：例　いつ始まったの?毎年いつどこでやっているの?お話の内容は?・何のためにやっているの?など～すぐにGT1が答えずに、「この問いに答えられる人は?」と児童の中に返すこともある。児童の中から望ましい考え方が出るようにしたい。 ・ここまで見て感じたこと、考えたことを発表しよう（挙手で）。 ・「地域に古くから残るげいのう」を「きょう土げいのう」といいます。	・「獅子頭」を持って机の間を回る。 ○GT2とHTは机間指導（ついてこられない児童への支援） ・みつけたらしるしをつけるとともに，自分なりに答えをメモさせる。 ・2度目の視聴は，まわりと相談しながら答えを出し、プリントに書き込ませる。答え合わせは・・・? ・GT1：「なぜ」「なんで」の問いかけを尊重。できるだけ具体的な質問を出させる。 ○HTは、「感じた」と「考えた」の違いを意識して児童の反応を観察する（評価のため）。 ☆評価：社会的事象に対する知識・理解～少なくとも，むらの発展や人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解できる（理解しようと努めている）。 ○HTが黒板に「きょう土げいのう」と書き込む。	・GT２及びHTは机間指導・ついてこられない児童への支援 ・HTは児童の気持ちになって時に手を挙げてGT1に質問する。ただし、いつから始まった芸能か、ストーリーは?などは謎であることをふまえる（学芸員の願い：それを誰か児童に将来研究してほしい）。 ・大切なことは，代々この芸能を受け継ぐこと?

まとめる 5分	・「獅子舞を踊るときに、何が一番大へん?」「『一年が終わった』と感じるのはなぜ?」を順に質問する。 ・「きょう土げいのう」の確認を。 ・「猿の面」を紹介（プレゼント） ・GT1のまとめとHTへバトンタッチ。 ・HT：GT1へのお礼の言葉と授業終了の挨拶（次の時間の指示）	☆評価：ここも大切な評価場面 ・二つの質問の答えが出づらい場合は、次の担任の授業につなぐようにGT2が促す。GT1はここまでを総括して終了。 ・児童の代表からお礼の言葉を ・「サルの面」の配付は次時で。	・博物館の三匹獅子舞のコーナーをGT2が宣伝する。（ぜひとも家の方などと一緒に）。 ・自由研究の誘いも。

※　出前授業に準じるものとして、授業づくりの共同研究や授業実践支援等も行った。
該当する学校は次のとおり。
・松戸市立東松戸小学校

(3) 体験学習

■こども体験教室「親も楽しむ　米づくりと展示づくり―小学生学芸員になろう―」
（博物館友の会共催）（会場：21世紀の森と広場の水田・博物館実習室等）

対 象 者　小学４～６年生と保護者の方
開催月日　①平成29年５月６日（土）田起こし・代かき
②５月13日（土）田植え
③７月８日（土）田の草取り・勉強会
④８月５日（土）案山子づくり
⑤９月16日（土）稲刈り
⑥９月30日（土）脱穀
⑦11月25日（土）竈でご飯を炊く・展示をつくる（１）
⑧12月９日（土）展示をつくる（２）
⑨平成30年１月６日（土）展示をつくる（３）
⑩１月27日（土）小学生学芸員展示解説会
内　　容　21世紀の森と広場内の水田で、田起こし・代かきから田植え、田の草取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を示したパネルをつくり、学習資料展「昔のくらし探検」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示した。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を受けた。
講　　師　青木　俊也・中山　文人（当館学芸員）・博物館友の会会員
応募人数　12人（小学生６人、保護者６人）（※定員10組20人）
参加人数　延べ100人（小学生56人、保護者44人）
（①12人②12人③６人④10人⑤12人⑥12人⑦12人⑧６人
⑨６人⑩12人）

■こども体験教室「親も楽しむ　勾玉（まがたま）づくり」（会場：実習室）

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年 ５月３日（水・祝）	10時～11時	小学生と 保護者	大森　隆志 小林　孝秀 （当館学芸員）	17組33人 （※定員15組30人 のため抽選）	27人 （小学生15人、 保護者12人）
第２回		13時30分～ 14時30分			12組21人 （※定員15組30人）	19人 （小学生12人、 保護者７人）

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第３回	８月５日(土)	10時～11時	小学生と保護者	大森　隆志（当館学芸員）	11組27人（※定員15組30人）	28人（小学生15人、保護者13人）
第４回		13時30分～14時30分			13組32人（※定員15組30人）	32人（小学生17人、保護者15人）
内容	縄文時代の装身具(勾玉)作りを通して、当時の生活技術の一端を知ってもらった。					

■こども体験教室「親も楽しむ　土鈴(どれい)づくり」(会場:実習室)

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年７月29日(土)	10時～11時	小学生と保護者	小林　孝秀（当館学芸員）	８組19人（※定員15組30人）	23人（小学生10人、保護者12人、小学生未満１人）
第２回		13時30分～14時30分			３組６人（※定員15組30人）	10人（小学生３人、保護者６人、小学生(付添)１人）
内容	粘土で縄文時代の楽器のひとつである鈴(土鈴)を作り、縄文時代の技術の一部を体験してもらった。					

■体験教室「裂き織りでポケットティッシュケースをつくろう」
(博物館友の会共催)(会場:実習室)

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年８月１日(火)（裂き織り）	各日９時30分～15時30分（各60分）	小学生（４年生以上）	青木　俊也（当館学芸員） はたくさの会（博物館友の会サークル）	16人（※定員16人）	延べ27人 ①６人 ②８人 ③13人
第２回	８月２日(水)（裂き織り）					
第３回	８月３日(木)（ポケットティッシュケース製作）	９時30分～11時30分または13時30分～15時30分				
内容	擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する裂き織りを体験し、その布でポケットティッシュケースを製作した。					

■こども体験教室「親も楽しむ　からくりおもちゃ〈初級編〉パタパタをつくろう」
(博物館友の会共催)(会場:実習室)

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年８月20日(日)	10時～12時	小学３～６年生と保護者（ただし、こどもだけの参加も可）	山田　尚彦（当館学芸員） 博物館友の会会員	事前応募７組14人（※定員10組20人）	14人（小学生７人、保護者７人）
第２回		13時30分～15時30分			事前応募８組17人（※定員10組20人）	17人（小学生９人、保護者８人）
内容	郷土玩具のひとつ「パタパタ」を作って遊ぶ。作品は持ち帰ることができる。					

■こども体験教室「親も楽しむ　からくりおもちゃ〈応用編〉からくり屏風をつくろう」
（博物館友の会共催）（会場：実習室）

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年 ８月27日（日）	10時～12時	小学３～６年生と保護者（ただし、こどもだけの参加も可）	山田　尚彦（当館学芸員） 博物館友の会会員	事前応募 10組19人 （※定員10組20人）	15人 （小学生10人、保護者５人）
第２回		13時30分～ 15時30分			事前応募 10組18人 （※定員10組20人）	14人 （小学生８人、保護者６人）
内容	からくりおもちゃの応用編として、からくり屏風を作って遊ぶ。作品は持ち帰ることができる。					

■体験教室「自分でつくる糸と布」
（博物館友の会共催）（会場：実習室）

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成30年 ２月８日（木） （糸紡ぎ）	９時30分～ 12時30分 または 13時30分～ 16時30分 （各50分）	一般	青木　俊也（当館学芸員） はたくさの会（博物館友の会サークル）	15人 （※定員８人のため抽選）	延べ16人 ①８人 ②８人
第２回	２月10日（土） （機織り）	10時～15時 （各50分）				
内容	綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。					

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」
（博物館友の会共催）（会場：実習室）

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１日	平成30年 ２月12日（月・祝）	各日 ①10時00分～ ②11時00分～ ③13時30分～ ④14時30分～ （各40分）	一般	青木　俊也（当館学芸員） はたくさの会（博物館友の会サークル）	28人 （※定員24人のため抽選）	延べ24人 ①８人 ②８人 ③８人
第２日	２月14日（水）					
第３日	２月15日（木）					
内容	擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する先人の知恵を体験した。					

■昔のくらし体験教室「天秤棒で桶を担いでみよう」
（博物館友の会共催）（会場：企画展示室）

	開催月日	時間	対象者	講師	参加人数	人数内訳
第１回	平成30年 １月13日（土）	13時10分～ 16時00分 の間で随時	学習資料展「昔のくらし探検」観覧者	博物館友の会会員	延べ164人 （子ども107人、一般57人） （※当日先着順）	33人
第２回	１月27日（土）					28人
第３回	２月10日（土）					18人
第４回	２月24日（土）					35人
第５回	３月10日（土）					29人
第６回	３月24日（土）					21人
内容	天秤棒で桶を担いで、昔のくらしの一端を体験した。					

■昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」
（博物館友の会共催）（会場：企画展示室）

	開催月日	時間	対象者	講師	参加人数	人数内訳
第１回	平成30年 １月20日（土）	13時10分～ 16時00分 の間で随時	学習資料展 「昔のくらし 探検」観覧者	博物館友の会 会員	延べ134人 （子ども67人、 一般67人） （※当日先着順）	19人
第２回	２月３日（土）					45人
第３回	２月17日（土）					26人
第４回	３月３日（土）					24人
第５回	３月17日（土）					20人
内容	四角い物、丸い物、瓶を風呂敷で包んで、昔のくらしの一端を体験した。					

■昔のくらし体験教室「紙芝居と昔の遊びを楽しむ日」
（博物館友の会共催）（会場：縄文の森広場、森の工芸館、企画展示室）

	開催月日	時間	対象者	講師	参加人数	日毎内訳	催物毎内訳
第１回	平成30年 ３月18日（日）	11時00分～ 15時30分	子どもと 一般	●紙芝居 峯岸　照恭氏 （大江戸ヤッサン 一座代表） ●昔の遊び 博物館友の会 会員	延べ546人 （子ども257人、 一般289人） （※当日先着 順）	延べ232人	●紙芝居150人 （子ども51人、一般99人） ●昔の遊び82人 （子ども49人、一般33人）
第２回	３月25日（日）	11時00分～ 15時30分				延べ314人	●紙芝居219人 （子ども89人、一般130人） ●昔の遊び95人 （子ども68人、一般27人）
内容	紙芝居とけん玉、コマなどの遊びを行って、「昔のくらし」における子どもの世界を楽しんだ。						

■博物館を描こう

	開催月日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
第１回	平成29年 ７月30日（日）	13時30分～ 16時30分	小学 ４～６年生	鵜沼　豊 （当館学習支援 専門員）	15人 （※定員12人の ため抽選）	12人
第２回	平成29年 ８月26日（土）	13時30分～ 16時30分			７人 （※定員12人）	７人
内容	博物館内外の風景、展示物の絵を描くことによって、博物館に対する興味関心、理解を深める。					

■中学生、高校生縄文土器に挑戦・作品展　by drawing

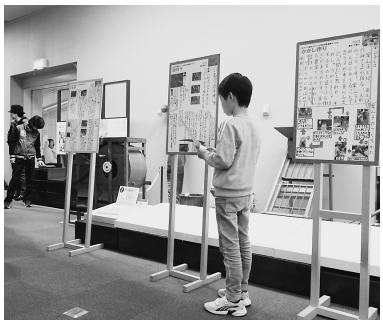
	開催月日	時間	対象者	講師	参加人数	作品展開催期間
中学生 の部	平成29年 ７月26日（水）	13時30分～ 16時30分	松戸市内 中学校 美術部員	市内中学校 美術科教員（２人） 鵜沼　豊 （当館学習支援専門員）	５人	平成29年 ８月２日（水） ～ ８月20日（日）
高校生 の部	平成29年 ７月27日（木）	13時30分～ 16時30分	市立松戸高校 美術部員	市立松戸高校 美術科教員（１人） 鵜沼　豊 （当館学習支援専門員）	７人	８月23日（水） ～ ９月10日（日）
内容	縄文土器をモチーフに絵を描くことを通じて、松戸市域の縄文時代の生活に理解を深めるとともに、縄文土器の造形的な美しさを表現することで、時代を超えた美的価値を味わう機会とする。作品は企画展示室ロビーに展示した。					



田植え



稲刈り

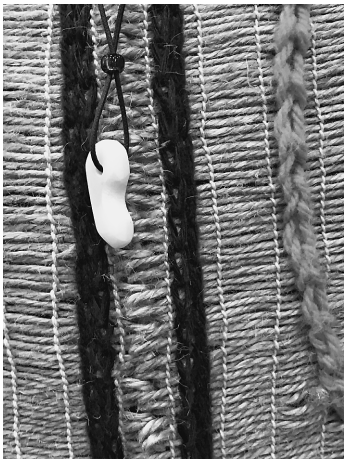


小学生学芸員展示解説会

「親も楽しむ　米づくりと展示づくり―小学生学芸員になろう―」



「親も楽しむ　土鈴づくり」

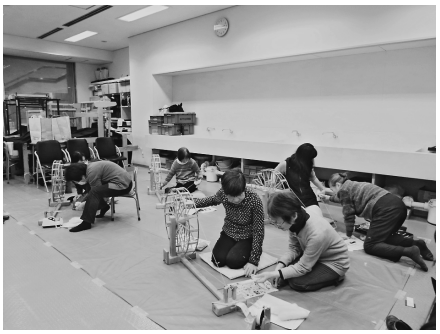




「親も楽しむ　勾玉づくり」



「裂き織りでポケットティッシュケースをつくろう」



「自分でつくる糸と布」



「裂き織りをしてみませんか」



「紙芝居と昔の遊びを楽しむ日」

■第２回松戸市立博物館アワード作品展

主　　旨　　博学連携の一環として、博物館の機能並びに環境を生かしたコンクールを開催することにより、児童生徒の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の積極的な活用を推進する機会とする。

主　　催　　松戸市立博物館

募集概要　（１）募集内容並びに募集対象者

①歴史に関する自由研究部門

・小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部、高校生の部

②歴史に関するイラスト部門

・小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部、高校生の部

（２）審査員

・千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会代表

・千葉県教育研究会松戸支会造形部会代表

・松戸市立博物館学芸員及び学習支援専門員

展示会場　　企画展示室

作品展開催月日　平成29年11月28日（火）～12月10日（日）

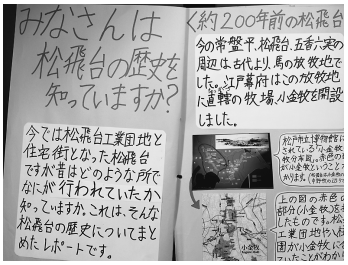


応募点数

	小学生中学年	小学生高学年	中学生	高校生	合計
自由研究部門	30	61	132	1	224
イラスト部門	24	40	74	7	145

応募校数　・自由研究部門：17校
・イラスト部門：24校

＜自由研究部門＞



教育長賞
「私たちの街　松飛台の歴史」
（松戸市立東松戸小学校）



博物館長賞
「坂川の歴史　村人たちのたいへんな苦労」
（松戸市立高木第二小学校）



博物館長賞
「戸定邸～うつりゆく姿～」
（松戸市立金ケ作中学校）

＜イラスト部門＞



教育長賞
「古ふん時代の家」
（松戸市立八ケ崎小学校）



博物館長賞
「清少納言の枕草子」
（松戸市立東松戸小学校）



博物館長賞
「縄文土器」
（松戸市立六実中学校）



博物館長賞
「江戸時代」
（松戸市立松戸高等学校）

⑷ ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利を有する映像ソフトを月替わりで毎日、講堂において定時上映した。ただし講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間　　午前11時・午後１時15分・３時15分

※午前11時上映分は『午前11時の名画座』として、過去に上映したものの中から好評だったものを上映した。(平成28年度から毎日上映)

※土日祝日の午後１時15分上映分は『キッズシアター』として、子ども向けプログラムの上映を開始した。

※６月20日～６月25日は燻蒸に伴う休館のため、上映していない。

ミュージアムシアター

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H29/４/１～30	〈奇跡の映像　よみがえる100年前の世界２〉 激動の世紀への胎動	26日	227人	8人
５/２～31	〈奇跡の映像　よみがえる100年前の世界３〉 かげりゆく共存の輝き	25日	487人	19人
６/１～30	〈千葉県指定無形民俗文化財〉椎津のカラダミ	20日	202人	10人
７/１～30	〈森浩一が語る日本の古代　第10巻〉 北と南の地域学	26日	123人	4人
８/１～31	〈ＮＨＫスペシャル　ドキュメント太平洋戦争　第３集〉エレクトロニクスが戦を制す ～マリアナ・サイパン～	27日	183人	6人
９/１～30	〈奇跡の映像　よみがえる100年前の世界10〉 カーンが見た“ニッポン”	25日	175人	7人
10/１～31	〈司馬遼太郎と城を歩く　第１巻〉 大阪城・小田原城・備中松山城・熊本城	26日	246人	9人
11/１～30	〈映像民俗学シリーズ　日本の姿　第１巻〉 アイヌの結婚式　北海道平取町二風谷	25日	144人	5人
12/１～27	〈日本の味・伝統食品第４集大豆と小麦食品のルーツと技を探るシリーズ〉 納豆のふるさと～アジアの納豆文化圏～	22日	93人	4人
H30/１/５～31	〈昭和30年代の日本・家族の生活　都会のくらし編〉百人の陽気な女房たち	22日	133人	6人
２/１～28	〈昭和こどもキネマ児童映画篇第２巻〉 こども議会	23日	63人	2人
３/１～31	〈ナショナルジオグラフィックビデオ〉 テムズ川紀行	26日	136人	5人
H29/４/１～30/３/31の合計値・平均値		293日	2,212人	7人

午前11時の名画座

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H29/4/1～30	〈秩父の通過儀礼その1〉 安産祈願から帯解きまで	26日	109人	4人
5/2～31	〈アレクサンドロス大王と東西文明　第1話〉 ギリシャの輝き	26日	333人	12人
6/1～30	〈戦後日本の原風景〉 都民たちの戦場～東京大空襲～	20日	268人	13人
7/1～30	〈アレクサンドロス大王と東西文明　第2話〉 ヘレニズムの風	26日	102人	3人
8/1～31	〈NHKスペシャル　ドキュメント太平洋戦争　第6集〉一億玉砕－日ソ終戦工作－	27日	123人	4人
9/1～30	〈世界諸宗教の道　その跡を求めて　第4巻〉 仏教　目覚めの道	25日	125人	5人
10/1～31	〈日本絵巻大全　第2巻〉 信貴山縁起第1巻　飛蔵巻(山崎長者巻)	26日	95人	3人
11/1～30	「朝日ニュース映画」で見る昭和　第1巻の② 昭和31年	25日	129人	5人
12/1～27	地球は語る　生命のリズム	22日	84人	3人
H30/1/5～31	〈ふるさとの伝承9〉合掌の里に念仏が聞こえる －富山県五箇所地方－	22日	91人	4人
2/1～28	「朝日ニュース映画」で見る昭和　第1巻の① 昭和30年	23日	94人	4人
3/1～31	〈映画で見る　昭和30年代の日本・家族の幸福　夫婦編〉愛情屋台	26日	89人	3人
H29/4/1～H30/3/31の合計値・平均値		294日	1,642人	5人

土日祝日のキッズシアター

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H29/4/1～30	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉町のねずみと田舎のねずみ・おしらさま・うさぎとカメ	10日	120人	12人
5/3～27	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉蛇息子・カッパとわらぞうり・そら豆とわら	10日	207人	20人
6/3～17	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉味噌買い橋・猫檀家・鳥呑み爺さん	5日	67人	13人
7/1～30	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉天狗の隠れみの・鬼婆さんが仲人・閻魔様はハチゴロどん	10日	61人	6人
8/5～27	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉きき耳ずきん・犬と猫と宝物・幽霊の歌よみ	8日	23人	2人
9/2～30	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉かぐや姫・鬼の妹・まんじゅうこわい	9日	33人	3人
10/1～29	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉たのきゅう・てえてえ小法師・にせ地蔵	8日	19人	2人
11/3～26	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉うばすて山・水の神の文使い・運のよいにわか侍	9日	65人	7人

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
12/2～24	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉海幸彦と山幸彦･河童が出てきた日･閻魔さまの失敗	7日	27人	3人
H30/1/6～28	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉桃太郎･はちかつぎ姫･十二支のはなし	8日	39人	4人
2/3～25	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉いくさはやめた･大蛇と狩人･尻尾の釣り	8日	46人	5人
3/3～31	アニメ〈ふるさと再生　日本の昔ばなし〉天福地福･菜飯八兵衛･茗荷女房	10日	47人	4人
H29/4/1～H30/3/31の合計値･平均値		102日	754人	7人

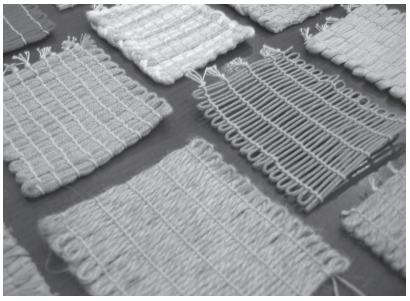
■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しめる場所として無料で開放している。体験プログラムとして、①やってみようアンギン編み、②つくってみようコースター、③着てみようアンギン編みの服、④つかってみよう糸車の４種類を実施した。また、「常設展示ぬりえ！」を設け、こどもからおとなまで、誰でもぬりえを楽しんでもらえるようにしている。

平成29年度利用者総数　　11,229人



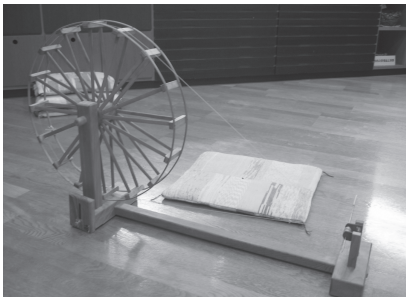
①やってみようアンギン編み



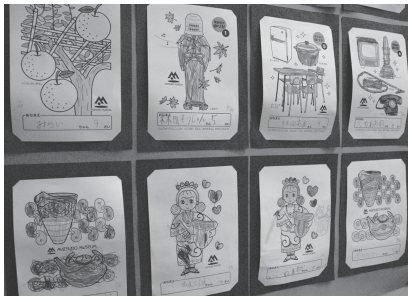
②つくってみようコースター



③着てみよう
アンギン編みの服



④つかってみよう糸車



「常設展示ぬりえ！」

⑸ 館内公開

対 象 者　一般
開催月日　①平成29年５月５日(金・祝)10:00～11:00
②平成29年８月６日(日)　10:00～11:00
内　　容　博物館の多様な活動を理解していただくため、通常は非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説した。８月６日は、燻蒸後における温湿度等の現況を考慮し、収蔵庫内の見学は実施しなかった。
講　　師　①柏木　一朗(当館学芸員)
②青木　俊也・小林　孝秀(当館学芸員)
応募人数　①事前応募３人、当日申込０人
②事前応募12人、当日申込０人
(※各回定員15人)
参加人数　延べ15人(①３人②12人)

⑹ ガイドツアー(常設展示解説)

平成29年度は206回行い1,072人が参加した。
「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで２名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日随時受け付け行った(解説時間約30分間)。なお、団体観覧者においては適宜開催した。


狩りと採集のムラ


武士と民衆

⑺ 情報提供

■閲覧コーナー

博物館利用者の学習支援のため、当館の購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行っている。蔵書の一部は開架で提供している。

・蔵書数（平成30年３月31日現在）

開架図書冊数　　1,234冊

閉架図書冊数　　38,118冊

・閉架図書の利用状況（平成29年４月１日～平成30年３月31日）

利用人数：35人

利用冊数：70冊

・視聴覚資料数（平成30年３月31日現在）

ビデオテープ　408巻

ＣＤ　　88枚

ＤＶＤ　　68枚

■刊行物

平成29年度の刊行物は次の通りである。

・松戸市立博物館年報　　第24号

Ａ４判70頁（本文70頁）　　500部　　平成29年８月31日

・松戸市立博物館紀要　　第25号

Ａ４判50頁（本文42頁）　　800部　　平成30年３月31日

・松戸市立博物館報告書６　　松戸市役所広報課旧蔵写真目録

Ａ４判168頁（本文160頁）　　600部　　平成30年３月31日

■ミュージアムショップ

受付横にミュージアムショップを開設し、刊行物とミュージアムグッズを販売している。

ミュージアムグッズ			
ジグソーパズル	５種類（各900円）、１種類（1,200円）	クリアホルダー　３枚セット	100円
絵はがき	８種類（各80円）、５種類（各100円）	ミニクリアホルダー（景清・阿沙丸・土偶）	各200円
テレフォンカード	４種類　各700円	（※28年９月末まで販売）　３枚セット	500円
埴輪ぬいぐるみキーホルダー（馬・人）	各350円	一筆箋（シルクロード・朱印状）	各300円
土鈴セット	200円	縄文土器レプリカ　深鉢形土器３種類	9,000円
メモ帳	100円		～10,000円
虚無僧ストラップ（青・赤・緑）	各750円	クリアホルダー（コシッキー１体・３体）	各150円
虚無僧錦絵・絵はがきセット	350円	ダイカットメモ（縄文）	300円
		ダイカットメモ（古墳）	300円
図　　録			
改訂版　常設展示図録（平成16年度）	1,500円	企画展　弥生人の脳発見！ －とっとり青谷上寺地遺跡展－（平成14年度）	完売
開設記念展　松戸写真館 －カメラがとらえた松戸の人々－（平成５年度）	完売	企画展　はにわの十字路 －古代東国の交流と地域性－（平成14年度）	1,000円
特別展　縄文土器の世界（平成５年度）	1,000円	特別展　川の道　江戸川（平成15年度）	1,000円
企画展　救いの民俗 －地獄極楽冥土の旅－（平成６年度）	完売	企画展　昔のくらし探検<松戸版>（平成16年度）	500円
特別展　馬と牧 －かつて松戸は牧場だった－（平成６年度）	完売	企画展　ペルシャ文明の曙 －文明の基層を探る－（平成17年度）	1,000円
企画展　稲と魚 －水田をめぐる漁・猟・採集－（平成７年度）	900円	企画展　戦国の城をさぐる －松戸市根木内歴史公園開園記念－（平成18年度）	1,000円
特別展　古墳時代の飾り馬 －馬利用のはじまりをさぐる－（平成７年度）	完売	企画展　大名の旅 －本陣と街道－（平成19年度）	1,000円

図　　録

企画展　小金城主高城氏（平成８年度(平成13年度再版)）	1,000円	特別展　縄文時代の東･西(平成20年度)	1,000円
特別展　シルクロードとガンダーラ(平成８年度)	1,500円	企画展　人生儀礼の世界(平成21年度)	1,000円
特別展　福神の世界(平成９年度)	完売	企画展　湯浅喜代治 考古コレクション －夢を追った70年－(平成22年度)	1,000円
特別展　ネアンデルタール人の復活(平成10年度)	1,000円	企画展　東日本の古墳と渡来文化 －海を越える人とモノ－(平成24年度)	1,000円
企画展　水戸道中 －宿場と旅人－(平成10年度)	完売	特別展　松戸の発掘60年史 －市内の遺跡を再検討－(平成25年度)	1,000円
特別展　貝塚を考える(平成10年度)	1,200円	企画展　Plastic？/Plastic！ －高度経済成長とプラスチック－(平成26年度)	1,000円
企画展　戦後松戸の生活革新 －新しい暮らし方へのあこがれ－(平成12年度)	完売	企画展　石斧と人－３万年のあゆみ－(平成28年度)	800円
企画展　中世の東葛飾 －いのり･くらし･まつりごと－(平成13年度)	1,200円	企画展　本土寺と戦国の社会(平成29年度)	900円

紀　　要

松戸市立博物館紀要　第１号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第14号	500円
松戸市立博物館紀要　第２号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第15号	500円
松戸市立博物館紀要　第３号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第16号	600円
松戸市立博物館紀要　第４号	700円	松戸市立博物館紀要　第17号	500円
松戸市立博物館紀要　第５号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第18号	500円
松戸市立博物館紀要　第６号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第19号	400円
松戸市立博物館紀要　第７号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第20号	500円
松戸市立博物館紀要　第８号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第21号	600円
松戸市立博物館紀要　第９号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第22号	500円
松戸市立博物館紀要　第10号	1,000円	松戸市立博物館紀要　第23号	400円
松戸市立博物館紀要　第11号	500円	松戸市立博物館紀要　第24号	300円
松戸市立博物館紀要　第12号	500円	松戸市立博物館紀要　第25号	400円
松戸市立博物館紀要　第13号	400円		

資　料　集　・　報　告　書

松戸市立博物館歴史資料集１ 東漸寺所蔵資料目録	700円	松戸市立博物館報告書３ 松戸市民家調査報告書	完売
松戸市立博物館歴史資料集２ 青木源内家所蔵資料目録追加	700円	松戸市立博物館報告書４ 松戸旧宿場町建築物調査報告書	2,100円
松戸市立博物館映像記録VTR 送り大師　東葛飾印旛大師講の人々	完売	松戸市立博物館報告書５ 農村松戸の民俗－1960年代調査の記録－	800円
松戸市立博物館報告書１ 松戸の三匹獅子舞(VTR含む)	5,400円	松戸市立博物館報告書６ 松戸市役所広報課旧蔵写真目録	900円
松戸市立博物館報告書２ 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200円		

松　　戸　　市　　史

松戸市史　上巻	完売	松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」	2,000円
松戸市史　上巻(改訂版)「原始･古代･中世」	3,000円	松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史　中巻「近世」	5,500円	松戸市史考古資料集１ 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史　下巻(一)「明治」	4,000円		
松戸市史　下巻(二)「大正･昭和」	3,900円	松戸市史考古資料集２ 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする考古資料	300円
松戸市史史料編(一)「大熊家文書」	2,800円		
松戸市史史料編(二)「近世諸家文書」	完売		
松戸市史史料編(三)「萬満寺史料」	3,500円	松戸市史考古資料集３ 関場遺跡第２地点出土旧石器資料報告 寒風台遺跡出土石器再整理報告	300円
松戸市史史料編(四)「本土寺史料」	5,500円		
松戸市史史料編(五)上「秋谷家文書」	8,050円		
松戸市史史料編(五)下「秋谷家文書」	7,500円	松戸市史考古資料集４ 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を中心とする考古資料	400円
松戸市史史料編(六)「東漸寺史料」	5,000円		
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円		
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円		

⑻ 博物館実習

募集要項を「広報まつど」および当館ホームページに掲載したところ12名の応募があり、書類審査の結果全員を受け入れることにした。実習生の氏名・所属および実習内容は以下のとおり。

平成29年度博物館実習生

班	大　学	氏　名	学部学科
第１班	大正大学	井芹　早希	文学部歴史学科
	立正大学	数本　創平	文学部史学科
	専修大学	山本　美空	文学部歴史学科
	筑波大学	金沢　和貴	情報学群知識情報・図書館学類
第２班	日本大学	坂本　直也	文理学部史学科
	東洋大学	棚田　智香	文学部教育学科
	東京女子大学	下村侑未佳	現代教養学部人文学科
	大正大学	冨士上まり子	文学部歴史学科
第３班	明治大学	黒谷　太郎	文学部史学地理学科
	二松学舎大学	菅原　早織	文学部国文学科
	立正大学	菊地　野枝	文学部史学科
	大正大学	金澤　知穂	文学部歴史学科

（１）　合同実習

月　日	午　前	午　後
７月23日（日）	実習内容説明、館内バックヤード見学	展示見学、質疑応答

（２）　個別実習

第１班　平成29年７月27日（木）～８月２日（水）

月　日	午　前	午　後
７月27日（木）	近世・近代文書整理	同左
７月28日（金）	こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」準備	同左
７月29日（土）	こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」補助	同左
７月30日（日）	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
８月１日（火）	展示室におけるこども向けプログラムの研究開発	同左
８月２日（水）	展示室におけるこども向けプログラムの研究発表	まとめ・レポート執筆など

第２班　平成29年８月３日（木）～８月９日（水）

月　日	午　前	午　後
８月３日（木）	近世・近代文書整理	同左
８月４日（金）	こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」準備	同左
８月５日（土）	こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」補助	同左
８月６日（日）	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
８月８日（火）	展示室におけるこども向けプログラムの研究開発	同左
８月９日（水）	展示室におけるこども向けプログラムの研究発表	まとめ・レポート執筆など

第３班　平成29年８月10日（木）～８月16日（水）

月　日	午　前	午　後
８月10日（木）	近世・近代文書整理	同左
８月11日（金）	近世・近代文書整理	同左
８月12日（土）	「発掘！発見！松戸の古墳時代」オリジナルチラシ作成	同左
８月13日（日）	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
８月15日（火）	展示室におけるこども向けプログラムの研究開発	同左
８月16日（水）	展示室におけるこども向けプログラムの研究発表	まとめ・レポート執筆など

⑼ 教員・生徒・児童の職場研修・職場体験学習の受け入れ

学校から個別に依頼を受けて、博物館の活用等を目的とした小学校教員対象の体験研修と小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の勤労観・社会観を育成するための職場体験学習を行った。

中堅教諭等資質向上研修（体験研修）

学校名	担当教科等	日時
松戸市立和名ケ谷中学校	体育	7月25・26日
同　栗ケ沢中学校	特別支援	同上
同　六実小学校	教務	8月17・18日
同　松ケ丘小学校	4年担任	同上
同　新松戸南中学校	理科	8月22・23日
同　常盤平中学校	家庭科	同上
同　新松戸南小学校	6年担任	8月24・25日
同　東松戸小学校	6年担任	同上

高校生

学校名	学年	日時
専修大学松戸高等学校	第１学年（２名）	7月25日
千葉県立松戸高等学校	第１学年（１名）	8月８日
松戸市立松戸高等学校	第１学年（１名）	8月10日

中学生

学校名	学年	日時
専修大学松戸中学校	第２学年（２名）	6月６日
松戸市立第三中学校	第２学年（２名）	10月12日
同　第一中学校	第２学年（２名）	11月８日
同　和名ケ谷中学校	第２学年（２名）	11月30日
同　新松戸南中学校	第２学年（２名）	12月６日

小学生

学校名	学年	日時
松戸市立高木小学校	第６学年（２名）	6月13日
同　新松戸西小学校	第６学年（１名）	8月４日

4　共催事業

⑴ 千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会向け展示解説会（ナイトミュージアム）（会場：企画展示室）

対 象 者　千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会
開催月日　平成29年10月11日（水）
内　　容　企画展「本土寺と戦国の社会」の展示解説を千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会の有志に向けて行った。
参加人数　31人

⑵ 松戸市PTA連絡協議会常任評議委員会及び研修会（会場：講堂）

（松戸市教育委員会生涯学習推進課・博物館連携事業）

対 象 者　松戸市PTA連絡協議会会員
開催月日　平成30年３月26日（月）
内　　容　博物館を会場にして松戸市PTA連絡協議会を開催し、終了後に博物館展示を見学した。
参加人数　85人

5　調査・研究

(1) 研究員の活動

「松戸市立博物館研究員設置要綱」(P70)に則り、下記の方々に研究員を委嘱した。

村井　良子　(プランニング・ラボ)

研究テーマ:「子供向け展示の研究」

常設展示室及び学習資料展「昔のくらし探検」に対する展示評価をもとに、今後の展示リニューアル準備の一環として、子供向け展示の計画を研究した。具体的には常設展示室リニューアルにおける(仮)「こども歴史博物館」の展示計画の検討を行った。

中川　洋　(法政大学兼任講師)

研究テーマ:「陸軍鉄道聯隊演習線の研究」

鉄道聯隊によって千葉県内に敷設された演習線について、その建設の背景および経緯、訓練や運用の実態、戦後の跡地利用についての研究を行った。具体的には、陸軍鉄道聯隊線の史料所在調査及び参考文献の調査を行った。

柴田　徹　(東海大学講師)

研究テーマ①「松戸市における旧石器時代の石材移動についての研究」

野見塚遺跡・坂之台遺跡出土石器の石材産地分析を行った。成果は常設展示、旧石器時代の「石材の産地」パネル更新に反映させた。

研究テーマ②「偏光顕微鏡を用いた土器胎土分析による松戸市内出土縄文土器とブルガリア先史土器の比較研究」

上記テーマの基礎研究として、ブルガリア前期青銅器時代土器のプレパラートを30点作成した。

(2) 学芸員の活動

山田　尚彦　　専攻分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」
「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

・館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」担当(平成29年４月25日～６月11日)
・講演会講師　学芸員講演会①「木地屋とこけし」(平成29年５月28日)
・こども体験教室「親も楽しむ　からくりおもちゃ〈初級編〉パタパタをつくろう」講師(２回・平成29年８月20日)
・こども体験教室「「親も楽しむ　からくりおもちゃ〈応用編〉からくり屏風をつくろう」講師(２回・平成29年８月27日)

[外部機関等協力活動]

・出前授業「「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」(松戸市立根木内小学校　平成30年２月16日)
・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(平成29年10月１日～平成30年３月23日)

[執筆]

・資料紹介「松戸市立博物館蔵『下駄職人道具』について」『松戸市立博物館紀要』第25号　松戸市立博物館　平成30年３月31日

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、相模民俗学会、地方史研究協議会、文化資源学会、日本生活学会、日本風俗史学会、日本家政学会、日本写真学会、メディア史研究会、情報知識学会、文化財保存修復学会、American Anthropology Association

中山　文人　　専攻分野:日本中世史
研究テーマ:「関東中世史の研究」

［年間活動］
・平成29年度企画展「本土寺と戦国の社会」担当（平成29年９月23日～11月12日）
・こども体験教室講師「親も楽しむ　米づくりと展示づくり―小学生学芸員になろう―」
（10回・平成29年５月６日～平成30年１月27日）
・講座講師「戦国末期の史料を読む」（全６回・平成30年１月12日～３月23日）
・講演会講師　学芸員講演会「本土寺と戦国の社会」（平成29年10月22日）

［外部機関等協力活動］
・講演会講師　聖徳大学オープンアカデミー公開講座「撃たず、首級も挙げない戦国時代の戦いin松戸・市川」（平成29年９月29日・10月６日）
・講演会講師　金ケ作門前町会集会所建設30周年記念講演「『本土寺と戦国の社会』のオススメ」（平成29年10月29日）
・講演会講師　専修大学松戸中学校２年生向け講演「本土寺と戦国の社会」（平成29年12月２日）

［執筆］
・企画展示図録『本土寺と戦国の社会』松戸市立博物館（平成29年９月23日）

［所属学会］
・歴史学研究会、地方史研究協議会、日本史研究会、千葉城郭研究会、千葉歴史学会

青木　俊也　　専門分野:民俗学
研究テーマ「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

［年間活動］
・学習資料展「昔のくらし探検」担当（平成30年１月13日～３月25日）
・こども体験教室講師「親も楽しむ　米づくりと展示づくり―小学生学芸員になろう―」
（10回・平成29年５月６日～平成30年１月27日）
・体験教室講師「裂き織りでポケットティッシュケースをつくろう」（３回・平成29年８月１日～３日）
・体験教室講師「自分でつくる糸と布」（２回・平成30年２月８日、２月10日）
・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」（24回・平成30年２月12日、14日、15日）
・講演会講師　学芸員講演会②「富士山への信仰―松戸の富士講から―」（平成29年７月23日）

［外部機関等協力活動］
・松戸市パートナー講座講師いきいきサロン（南花島地区）「松戸の結婚の儀礼」（平成29年６月３日）
・シルバー大学院（鎌ケ谷市民を中心とした学習サークル）講演会講師「結婚の民俗」（平成29年７月５日）
・栗ケ沢中学校第２学年「総合的な学習『職業人（博物館学芸員）に学ぶ』」講師（平成29年11月24日）
・立教大学兼任講師 学校・社会教育講座「民俗学」１（平成29年４月１日～８月31日）
・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師「博物館民俗資料学特論」「博物館歴史資料学特論」（平成29年９月１日～平成30年３月31日）

［所属学会］
日本民俗学会、日本民具学会、群馬歴史民俗研究会

柏木　一朗　　専門分野:日本近代史
研究テーマ「近代日本政治外交史・近代日本軍事史の研究」

［年間活動］
・ミニ写真展担当（平成29年４月１日～30年３月31日）
・講座講師「松戸の歴史をさぐる　近現代編Ⅱ」（平成29年11月18日、12月２日・16日）
・講演会講師　松戸駅前博物館①「天皇陛下と松戸」（平成29年９月14日）
・講演会講師　学芸員講演会⑤「幕末の志士と松戸」（平成30年２月18日）

［外部機関等協力活動］
・松戸市パートナー講座講師「松戸市の歴史を学ぼう/明治時代の松戸」（主催：いきいきサロン南花島、平成30年３月３日）
・法政大学通信教育部兼任講師「日本近代史」（平成29年４月７日より７月22日）
・法政大学文学部兼任講師「日本史Ⅰ」（平成29年９月16日より30年３月31日）
［執筆］
・「新収蔵資料　私立松戸中学校校友会誌『松籟』第一号について」『松戸市立博物館紀要』第25号　松戸市立博物館　平成30年３月31日
・「松戸市役所広報課旧蔵写真について『松戸市立博物館調査報告書６　松戸市役所広報課旧蔵写真目録』（松戸市立博物館　平成30年３月31日）
［所属学会］
歴史学会、明治維新史学会、東アジア近代史学会、日本台湾学会、洋学史学会、法政大学史学会

大森　隆志　専門分野：考古学
研究テーマ：「中世地下式坑の考古学的研究」
［年間活動］
・こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」講師（４回・平成29年５月３日・８月５日）
［外部機関等協力活動］
・松戸市パートナー講座講師「松戸の旧石器時代～縄文時代の遺跡」（主催：あらかると、平成29年７月22日）
［所属学会］
日本考古学協会、日本考古学会、縄文時代文化研究会、山梨県考古学協会、文化経済学会〈日本〉、日本アートマネジメント学会

小林　孝秀　専門分野：日本考古学・東アジア考古学
研究テーマ：「古墳時代東国社会の研究」「古代東アジア交流史の研究」
［年間活動］
・館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」担当（平成29年７月15日～９月10日）
・こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」講師（２回、平成29年５月３日）
・こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」講師（２回、平成29年７月29日）
・講演会講師「学芸員講演会③　松戸の古墳をとらえなおす」（平成29年９月３日）
［外部機関等協力活動］
・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／遺跡から見た原始・古代の松戸」（主催：大金平四丁目町会、会場：大金平公民館、平成29年11月14日）
・講座講師「古墳時代東国の渡来人と渡来文化」平成29年古代史セミナー９月講座「古墳・飛鳥時代の渡来人と渡来文化」（全６回のうち第５回を担当、古代史セミナー横浜、会場：地球市民かながわプラザホール、平成29年11月９日）
・駒澤大学文学部非常勤講師「歴史学（日本考古学）」（平成29年４月１日～平成30年３月31日）
・専修大学文学部非常勤講師「歴史学Ａ（通年）/歴史学101（前期）・歴史学102（後期）/歴史の視点（前期）・歴史と地域・民衆（後期）」「日本史（通年）/日本史ａ（前期）・日本史ｂ（後期）」（平成29年４月１日～平成30年３月31日）
［執筆］
・「古墳からみた須恵器の変容―関東」『季刊考古学』第142号 特集 須恵器の変容と各地の古墳文化 雄山閣（平成30年２月１日）
［所属学会］
日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、東北・関東前方後円墳研究会、茨城県考古学協会、埴輪研

究会、韓国考古学会、嶺南考古学会、専修大学歴史学会

富澤　達三　専門分野：日本近世史・歴史民俗資料学
研究テーマ：「図像資料による江戸後期から明治初頭の常民文化の研究」「動物から探る松戸の近世」

［年間活動］
・講座講師「古文書を読む（近世入門編）」担当（全５回、平成30年１月６日～３月３日の隔週土曜日）
・松戸駅前博物館②「江戸落語を聞く会」冒頭講話「お江戸の落語―江戸の寄席―」（平成30年１月21日）

［外部機関等協力活動］
・松戸市パートナー講座講師「離別状から松戸の江戸時代をさぐる」（主催：岩瀬ときめきクラブ、会場：岩瀬自治会集会所、平成29年４月22日）
・講演会「小金原の沿革・歴史―江戸時代の馬―」（主催：市川老壮会、会場：市川市中央公民館、平成29年５月16日）
・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／「江戸時代の小金原」（主催：マロン会、会場：小金原市民センター、平成29年５月19日）
・市民自主企画講座（ご近所探訪・地域を学ぶ）講師／「水戸道中・松戸宿の歴史」（主催：松戸市教育委員会生涯学習推進課、連携：「ご近所探訪・地域を学ぶ」、会場：松戸市文化ホール講座室、平成29年10月20日）
・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／牧の原周辺の記憶―江戸時代にさかのぼって―」（主催：牧の原ひまわりくらぶ、会場：八柱市民センター、平成30年２月11日）
・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／江戸時代の幸谷村」（主催：新松戸サンパストラル６番街管理組合、会場：新松戸サンパストラル６番街管理棟、平成30年２月18日）
・聖徳大学オープンアカデミー公開講座、平成29年度第Ⅲ期　松戸市立博物館協力講演（２回連続）「松戸のまちと小さな神々」（主催：聖徳大学生涯学習課、会場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター、平成30年３月９日）/「馬のいた暮らし」＋２階総合展示室近世展示コーナー見学（会場：松戸市立博物館、平成30年３月16日）
・講演会講師　学芸員講演会⑥「お江戸の大事件と錦絵Ⅱ」（平成30年３月31日）
・「旧松戸宿の歴史探訪」（千葉県教育研究会松戸支会より依頼、平成29年８月２日）
・首都大学東京非常勤講師「博物館経営論」（平成29年４月１日～７月31日）
・神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料センター、研究協力者（平成29年４月１日～平成30年３月31日）

［執筆］
・『神奈川大学日本常民文化研究所　非文字資料センター研究成果報告書　日本近世生活絵引　南九州編』神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料センター　2018年２月28日
（分担執筆：Ⅳ章「８　福山」、Ⅵ章「４　心岳寺と馬牧」、Ⅵ章「５　霧島西嶽」、Ⅵ章「６　近衛桜」）
・『国策紙芝居からみる日本の戦争』神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料センター編著、勉誠出版刊　2018年２月28日（第二次世界大戦期の国策紙芝居27作品の解説・解題を分担執筆）

［所属学会］
地方史研究協議会、関東近世史研究会、明治維新史学会、日本民俗学会、国際浮世絵学会、日本風俗史学会

6　資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料

寄贈

・中田　　英　様	「鳴子こけし」(松田三夫作)	1点
・山本　克己　様	「二十世紀美野里町付近(写真)」	3点
・小林　フサ　様	「土湯系こけし」(岩本芳蔵作)	1点
・小暮二三代　様	「盃(「大東亜戦争記念」)	1点
・渡辺　淑子　様	「天秤棒秤」	1点
・大村　　裕　様	「下総考古学研究会　研究メモ」	284点
・吉岡　延枝　様	「近世・近代古文書」	123点
・羽島　健司　様	「東北の伝統こけし」(小椋久太郎、鈴木征一作)	11点

寄託

・塚田輝夫　様	「旧秋山村渡辺家文書」	42点
・上本郷獅子舞講中　様	「上本郷獅子舞講中史料」	528点
	「上本郷獅子舞　獅子頭羽根飾り」	3点

二次資料

受贈図書	384冊	図書交換機関等	334ケ所
購入図書	80冊	購入逐次刊行物	36タイトル
交換図書	544冊	受贈及び交換逐次刊行物	232タイトル

(2) 博物館資料の貸出　(平成29年４月１日～30年３月31日申請分)

	貸出期間	借用者	利用形態	目　的	貸出資料・点数
1	平成29年10月17日～10月20日	個人	資料貸出	高齢者サロン活動で松戸市立博物館を紹介するため	DVD「僕 らのワンダーランド」１点
2	平成30年1月11日～3月16日	千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会	資料貸出	巡回展「まちづくりのヒストリア」展で展示するため	馬形埴輪(立出し遺跡出土)ほか２点
3	平成30年1月30日～3月25日	葛飾区郷土と天文の博物館	資料貸出	企画展「かつしか絵図風土記」展で展示するため	嘉永己酉御狩場絵図ほか４点
4	平成29年4月1日～平成30年3月31日	鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館	資料貸出	常設展示室で展示するため	二十世紀梨原木　１点
5	平成30年1月18日～1月31日	松戸市戸定歴史館	資料貸出	テレビ撮影のため	桶(体験用資料)１点

(3) 博物館資料の特別利用　(平成29年４月１日～30年３月31日申請分)

	利用日	利用者	利用方法	利用目的	利用資料・点数
1	平成29年４月28日	誠文堂新光社		「知られざる縄文ライフ」電子書籍版に掲載のため	幸田貝塚204号住居出土鉢土器写真　１点
2	4月26日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年５月号「誌上博物館」に掲載するため	常設展示風景(縄文コーナー)３点
3	6月30日	フォトパブリッシング		「県民必読！知れば知るほど面白い千葉県の地理と歴史」に掲載するため	二十世紀梨の原木(画像)ほか１点
4	5月12日	個人		調査研究のため	大谷口遺跡出土資料(土器)５点
5	5月18日	個人		調査研究のため	中村美千代氏所蔵文書　20点
6	５月17･18日	個人		調査研究のため	凹石(５箱)ほか２点

	利用日	利用者	利用方法	利用目的	利用資料・点数
7	平成29年6月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年６月号「誌上博物館」に掲載するため	縄文時代展示コーナーの石器なのど道具　５点
8	7月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年７月号「誌上博物館」に掲載するため	弥生時代古墳時代平安時代コーナーの展示品　５点
9	6月29日	個人		調査研究のため	溜ノ上遺跡出土掻器　１点
10	7月５日	個人		調査研究のため	万作を語る（映像）　ほか１点
11	8月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年８月号「誌上博物館」に掲載するため	河原塚古墳群出土品　５点
12	8月18日	個人		調査研究研究のため	享保９年御用留帳ほか３点
13	8月26日	個人		調査研究研究のため	貝の花遺跡出土製塩土器
14	9月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年９月号「誌上博物館」に掲載するため	古墳時代展示コーナーの土器10点
15	10月15日	個人		東京都のビジネスプランコンテストに応募するため	上本郷駅（画像）ほか84点
16	9月６日	個人		調査研究のため	行人台遺跡出土資料　44箱
17	４月１日（平成30年）	全教図		高等学校社会科資料集に掲載するため	常盤平団地２DK（画像）２点
18	10月３日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年10月号「誌上博物館」に掲載するため	古墳時代展示コーナーの埴輪４点
19	10月８日	個人		調査研究のため	下総国小金之原御狩之図　ほか３点
19	7月18日	NHK		放送大学「考古学」の講義内で使用するため	復原竪穴住居（画像）１点
20	10月20日	個人		月刊「新松戸」９月号に掲載するため	小金之原御狩之記（「松戸市史」中巻より転載）
21	11月３日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年11月号「誌上博物館」に掲載するため	平安時代コーナー展示の墨書土器　３点
22	2月22日（平成30年）	葛飾郷土と天文の博物館		企画展「かつしか絵図風土記」図録に掲載するため	嘉永己酉御狩場絵図ほか６点
23	12月30日	サンケイリビング		「リビング柏」年末年始号に掲載するため	松戸宿本陣図面
24	12月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成29年12月号「誌上博物館」に掲載するため	小野遺跡出土の鉄鎌ほか16点
25	2月10日（平成30年）	袖ヶ浦市郷土博物館		特別展「山野貝塚のヒミツを探る」展パネル及び図録に掲載するため	貝の花貝塚人骨出土状況写真ほか１点
26	1月15日	NHK		番組ホームページに掲載するため	常盤平団地２DK（画像）６枚
27	1月13日	ディ・コンプレックス		BSフジ「名曲！旅の詞」で使用するため	徳川神君（東漸寺所蔵）画像
28	12月24日（平成29年）	個人		調査研究のため	ガンダーラ仏教美術品　39点
29	1月26日（平成30年）	個人		調査研究のため	幸谷村絵図　ほか３点
30	1月24日	松戸市立根木内小学校		調査研究のため	「僕らのワンダーランド」（映像）１点
31	1月23日	個人		調査研究のため	市内撮影（昭和39年）空中写真１点
32	12月28日（平成29年）	個人		NHK杯全国高校放送コンテスト応募作品制作のため	常設展示室（動画撮影）
33	1月30日（平成30年）	松戸市立東松戸小学校		調査研究のため	「万作を語る」（映像）１点
34	2月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成30年２月号「誌上博物館」に掲載するため	常設展示室中世コーナー５点
35	2月８日	東京大学史料編纂所		調査研究のため	西原文書（10点）ほか２点

	利用日	利用者	利用方法	利用目的	利用資料・点数
36	平成30年３月24日	ハウフルス		テレビ東京「出没！アドマチック天国」で放送するため	「富士三十六景下総小金原」(画像)１点
37	3月24日	ハウフルス		テレビ東京「出没！アドマチック天国」で放送するため	延宝２年「松戸宿図」(画像)ほか１点
38	2月27日	松戸市立根木内小学校		調査研究のため	「三匹獅子舞概要編　和名ヶ谷・上本郷・大橋」(映像)１点
39	2月27日	松戸市立梨香台小学校		調査研究のため	「三匹獅子舞概要編　和名ヶ谷・上本郷・大橋」(映像)１点
40	4月13日	個人		「昭和ノスタルジー解体」に掲載するため	常盤平団地２DK(画像)１点
41	2月28日	戎光祥出版		「図説戦国北条氏の合戦」に掲載するため	北条氏康書状(西原文書)１点
42	3月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成28年３月号の「誌上博物館」に掲載するため	小金城跡出土品(19点)ほか１点
43	3月24日	ハウフルス		テレビ東京「出没！アドマチック天国」で放送するため	松戸駅西口整備事業　１点
44	3月27日	松戸市観光協会		他社の発行する会報誌への情報提供のため	常盤平団地(画像)１点
45	4月20日	松戸よみうり新聞社		松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成28年４月号の「誌上博物館」に掲載するため	松戸の河岸復原模型　１点
46	3月21日	個人		調査研究のため	貝の花貝塚出土土器　２点
47	6月25日	KADOKAWA		「縄文土器・土偶」に掲載するため	根木内遺跡出土土器(画像)１点

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]
殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。
期　間:平成29年６月19日(月)～６月26日(月)
対　象:第１収蔵庫～第４収蔵庫
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:酸化プロピレン(商品名アルプ)

[燻蒸庫による資料燻蒸]
第１回
期　間:平成29年11月21日(火)～12月５日(火)
目　的:殺虫・殺卵
対　象:民俗資料・書籍
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

第２回
期　間:平成30年２月27日(火)～３月１日(木)
目　的:殺虫・殺卵・殺カビ
対　象:古文書・図書・古写真
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:酸化プロピレン(商品名アルプ)

[学習資料展資料燻蒸]
殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。
期　間:平成29年４月１日(土)～４月15日(土)
対　象:民俗資料等
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[野外展示・復元竪穴住居]
殺虫を目的とする防除作業を行った。
期　間:平成29年６月22日(木)～６月23日(金)
対　象:復元竪穴住居３棟
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:フェノトリン炭酸製剤(商品名ミラクンS)

7　平成29年度　常設展・企画展アンケート結果

■　調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、エントランスホール（常設展アンケート）と企画展示室前ロビー（企画展アンケート）に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の性別、年令、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

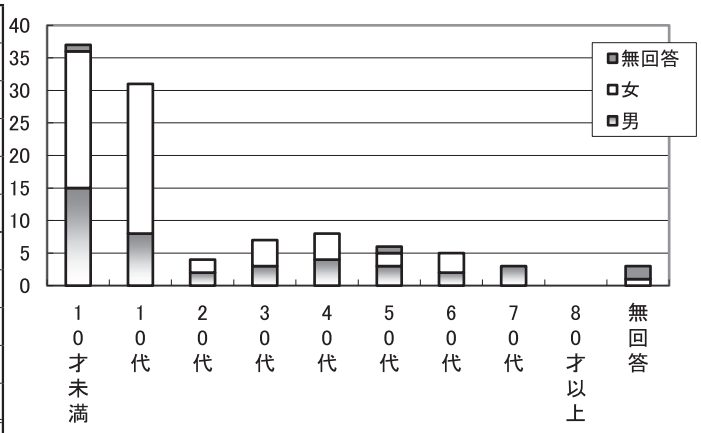
以下に、回答者の傾向を端的に示した“性別”と“年齢”のクロス集計、及び“来館回数”“満足度”という計３項目の結果をとりあげる。

(1) 平成29年度常設展

■　観覧者数　16,437人
■　アンケート有効回答者数　104件（回答率　0.63％）
■　調査期間　平成29年４月１日（土）～平成30年３月31日（土）

■　アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	15	21	1	37
10代	8	23	0	31
20代	2	2	0	4
30代	3	4	0	7
40代	4	4	0	8
50代	3	2	1	6
60代	2	3	0	5
70代	3	0	0	3
80才以上	0	0	0	0
無回答	0	1	2	3
計	40	60	4	104



■来館回数（件）

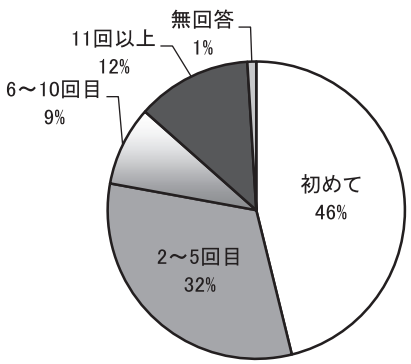
初めて	48
2～5回目	33
6～10回目	9
11回以上	13
無回答	1
計	104

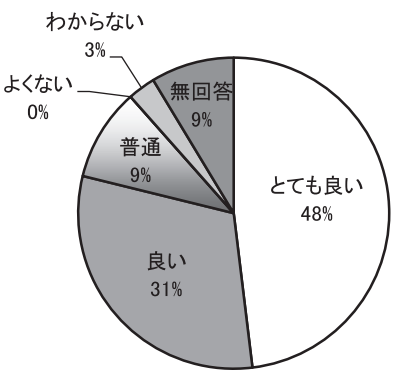
■回答者の満足度（件）

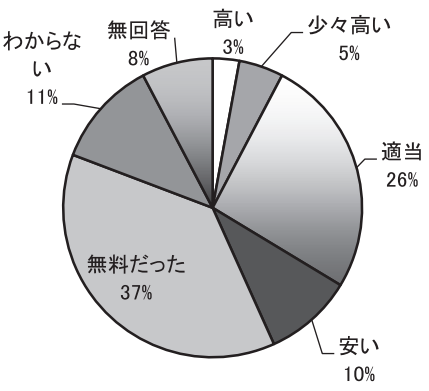
展示について	
とても良い	50
良い	32
普通	10
よくない	0
わからない	3
無回答	9
計	104

■観覧料について（件）

高い	3
少々高い	5
適当	27
安い	10
無料だった	39
わからない	12
無回答	8
計	104





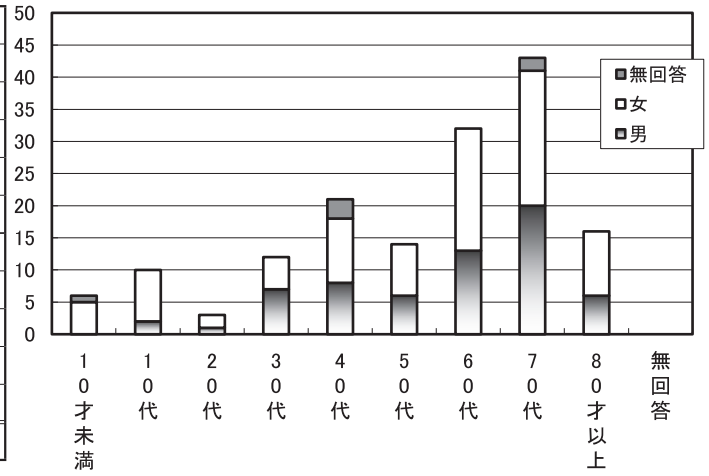


⑵ 館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」

■ 観覧者数　4,116人
■ アンケート有効回答者数　157件（回答率　3.8％）
■ 調査期間　平成29年４月25日（火）～平成29年６月11日（日）

■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	0	5	1	6
10代	2	8	0	10
20代	1	2	0	3
30代	7	5	0	12
40代	8	10	3	21
50代	6	8	0	14
60代	13	19	0	32
70代	20	21	2	43
80才以上	6	10	0	16
無回答	0	0	0	0
計	63	88	6	157

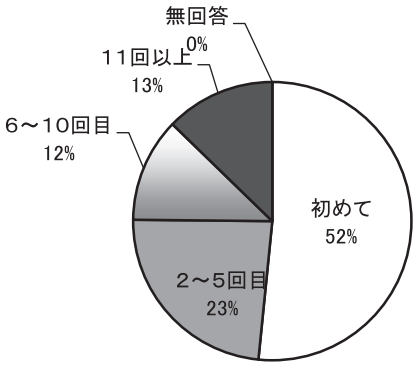


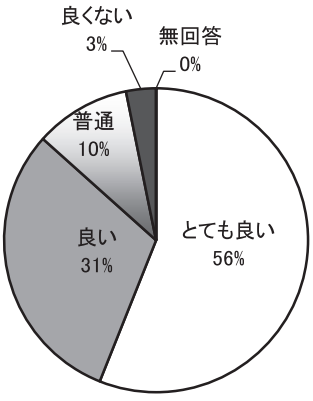
■来館回数（件）

初めて	81
2～5回目	37
6～10回目	19
11回以上	20
無回答	0
計	157

■回答者の満足度（件）

展示について	
とても良い	88
良い	48
普通	16
良くない	5
わからない	0
無回答	0
計	157



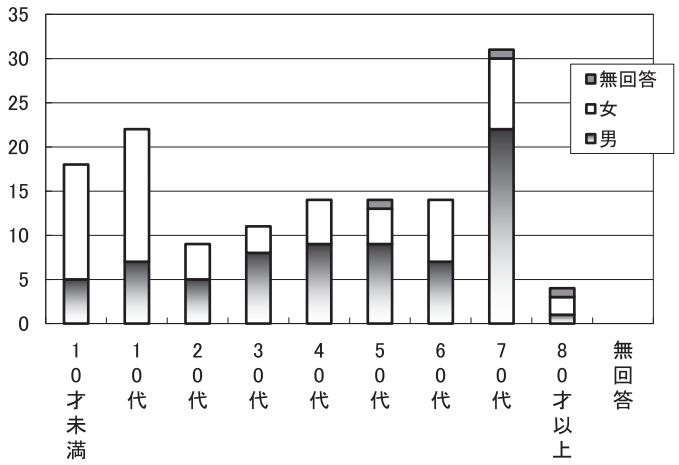


⑶ 館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」

■ 観覧者数　3,883人
■ アンケート有効回答者数　137件（回答率　3.5％）
■ 調査期間　平成29年７月15日（土）～平成29年９月10日（日）

■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	5	13	0	18
10代	7	15	0	22
20代	5	4	0	9
30代	8	3	0	11
40代	9	5	0	14
50代	9	4	1	14
60代	7	7	0	14
70代	22	8	1	31
80才以上	1	2	1	4
無回答	0	0	0	0
計	73	61	3	137

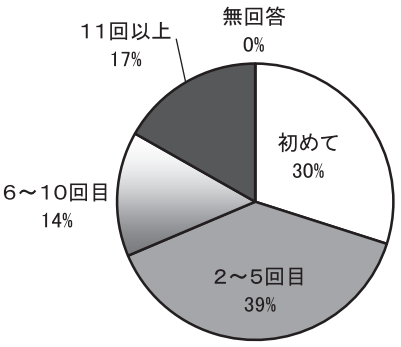


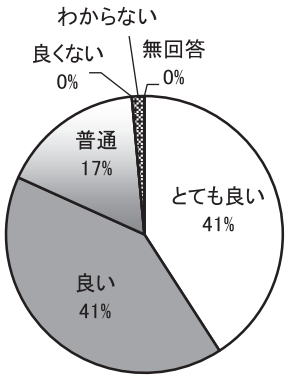
■来館回数（件）

初めて	41
2～5回目	53
6～10回目	20
11回以上	23
無回答	0
計	137

■回答者の満足度（件）

展示について	
とても良い	56
良い	56
普通	23
良くない	0
わからない	2
無回答	0
総計	137



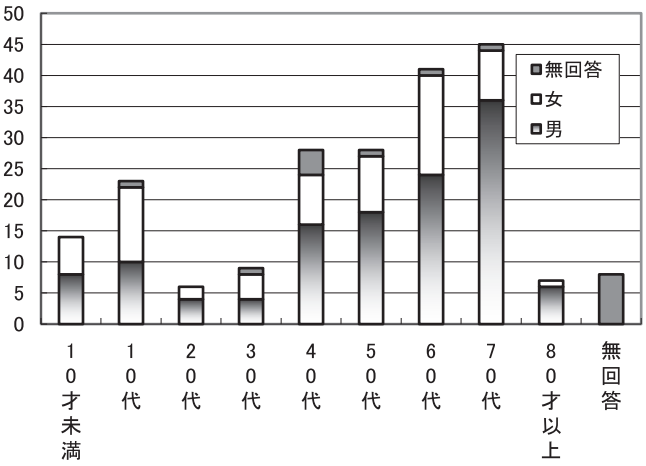


(4) 企画展「本土寺と戦国の社会」

■ 観覧者数　4,153人
■ アンケート有効回答者数　209件（回答率　5.0％）
■ 調査期間　平成29年９月23日（土・祝）～平成29年11月12日（日）

■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	8	6	0	14
10代	10	12	1	23
20代	4	2	0	6
30代	4	4	1	9
40代	16	8	4	28
50代	18	9	1	28
60代	24	16	1	41
70代	36	8	1	45
80才以上	6	1	0	7
無回答	0	0	8	8
計	126	66	17	209



■来館回数（件）

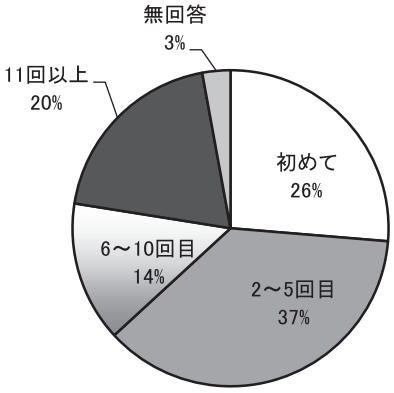
初めて	55
2～5回目	77
6～10回目	30
11回以上	41
無回答	6
計	209

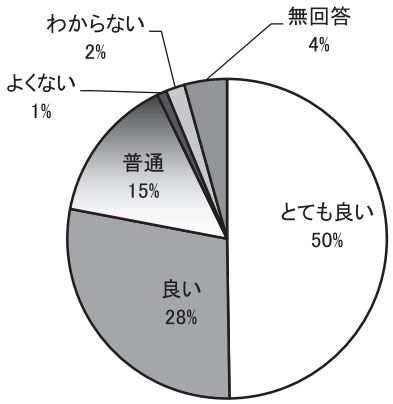
■回答者の満足度（件）

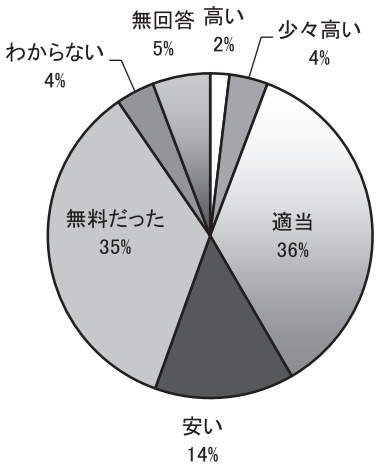
展示について	
とても良い	104
良い	59
普通	31
よくない	2
わからない	4
無回答	9
計	209

■観覧料について（件）

高い	4
少々高い	8
適当	75
安い	29
無料だった	73
わからない	8
無回答	12
計	209





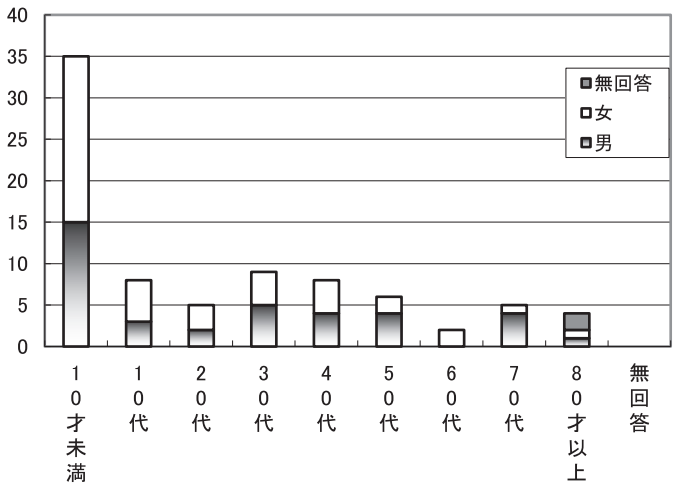


(5) 学習資料展「昔のくらし探検」

■ 観覧者数　7,519人
■ アンケート有効回答者数　82件（回答率　1.0％）
■ 調査期間　平成30年１月13日（土）～平成30年３月25日（日）

■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	15	20	0	35
10代	3	5	0	8
20代	2	3	0	5
30代	5	4	0	9
40代	4	4	0	8
50代	4	2	0	6
60代	0	2	0	2
70代	4	1	0	5
80才以上	1	1	2	4
無回答	0	0	0	0
計	38	42	2	82

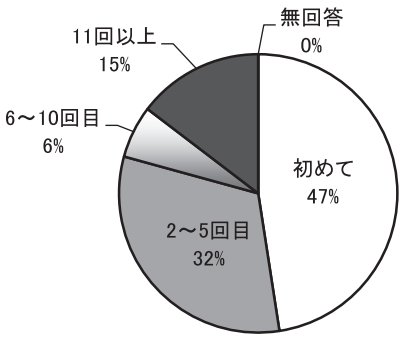


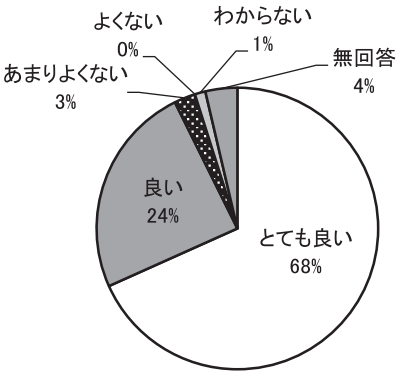
■来館回数（件）

初めて	39
2～5回目	26
6～10回目	5
11回以上	12
無回答	0
計	82

■回答者の満足度（件）

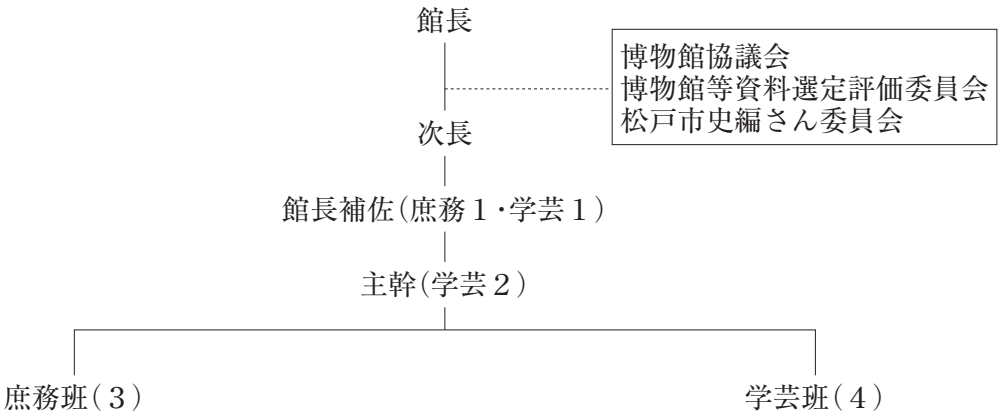
展示について	
とても良い	56
良い	20
あまりよくない	2
よくない	0
わからない	1
無回答	3
計	82





Ⅳ　組織と運営

1　組　織



2　歳出予算

（単位　千円）

事業／科目	予算額	内訳				
		管理運営	展示事業	学習支援	資料収集	市史編さん
報酬	304	204	0	0	100	0
賃金	19,133	0	2,955	10,739	5,439	0
報償	785	0	155	400	230	0
旅費	339	0	239	0	100	0
需用	27,557	20,416	4,267	488	2,386	0
役務	2,707	599	1,928	63	117	0
委託	83,999	63,603	14,509	716	5,171	0
使用	13,481	11,266	1,448	767	0	0
工事	0	0	0	0	0	0
原材	44	44	0	0	0	0
備品	1,838	85	303	100	1,350	0
負担	119	0	0	0	119	0
計	150,306	96,217	25,804	13,273	15,012	0

3　事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。また、博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年４回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。 平成10年度に市長から諮問のあった『松戸市史　上巻』の改訂については、平成26年度に『松戸市史　上巻（改訂版）』の刊行を行ったので、現在は、市長よりの諮問案件はない。

4　各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

（平成30年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
１号委員 学校教育関係者	水嶋　淳一	松戸市立寒風台小学校校長
	佐藤　祐介	松戸市立六実小学校教諭
２号委員 社会教育関係者	山口恵理子	北部幼稚園副園長
	岡田　啓峙	松戸市立博物館友の会会長
	谷鹿　栄一	千葉県立関宿城博物館館長
３号委員 家庭教育の向上に資する活動を行う者	百田　清美	ＮＰＯ法人ねばぁらんど理事長
４号委員 学識経験者	安蒜　政雄	明治大学名誉教授（考古学）
	濵島　正士	国立歴史民俗博物館名誉教授(建築史学)
	佐藤　孝之	東京大学教授（近世史）
	小島　孝夫	成城大学教授（民俗学）

任期２年　平成31年９月30日まで

第１回協議会
平成29年６月４日（日）
会場：博物館会議室
議題：(1) 平成29年度博物館事業概要の説明
(2)「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について
(3) 館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」内覧と評価
(4) その他

第２回協議会
平成29年10月８日（日）
会場：博物館会議室
議題：(1) 会長・副会長互選
(2) 平成29年度博物館事業上半期の報告
(3) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）
(4) 企画展「本土寺と戦国の社会」内覧と評価
(5) その他

第３回協議会
平成30年３月３日（土）
会場：博物館会議室
議題：(1) 松戸市立博物館「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想と基本計画（案）について
(2) その他

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

（平成30年３月31日現在）

氏　名	専　門	役　職　等
安蒜　政雄	考　古	明治大学名誉教授
金子　隆一	写　真	武蔵野美術大学非常勤講師
久保田昌希	歴　史	駒澤大学教授
佐野　賢治	民　俗	神奈川大学教授
松尾美恵子	歴　史	学習院女子大学名誉教授

任期２年　平成31年３月31日まで

委員会
平成29年度の開催はなし

⑶ 松戸市史編さん委員会

※「３　事務事業」にて記載の通り、平成10年度に市長から諮問のあった事業については、平成26年度で終了したので、現在は、市長よりの諮問案件はない。

市史編さん委員会の所掌事務は、市史編さん委員会条例第２条に「委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。」と規定されているので、以降の市史編さん委員会の開催は行っていない。また、委員は、平成28年６月30日をもって任期満了となっている。

今後の市史編さん事業のあり方については、平成28年度の第１回市史編さん委員会にて、市史編さんに関する専門の組織を立ち上げて、しっかりとした長期計画のもとで慎重に進めるように委員会の各委員から意見をいただいている。

博物館単独でできる事業ではなく、松戸市として全庁的な協力関係のもとで進める必要があるので、慎重に検討していきたいと考える。

5　博物館利用者数の統計

利用者総計　　73,628人

常設展示月別観覧者数、並びに平成29年度企画・特別展示等観覧者数は以下の通りである。

常設展示観覧者数（平成29年４月１日～平成30年３月31日現在）

月	開館日数(日)	有料観覧者数（人）							無料観覧者数（人）							観覧者総数(人)
		個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	無料開放日	無料観覧者計	
		一般	高校生大学生	一般	高校生大学生	一般	高校生大学生									
4	26	383	19	0	0	−	−	402	192	51	36	201	47	533	1,060	1,462
5	26	460	42	23	0	−	−	525	226	52	64	254	30	63	689	1,214
6	20	252	10	0	0	−	−	262	154	20	40	89	15	200	518	780
7	26	391	46	1	35	−	−	473	49	21	66	202	40	−	378	851
8	27	628	93	0	0	−	−	721	54	34	70	514	76	−	748	1,469
9	25	286	17	0	0	97	5	405	14	14	36	130	34	−	228	633
10	26	82	11	0	0	259	9	361	116	21	143	76	241	−	597	958
11	25	288	16	0	0	176	3	483	38	35	108	177	318	663	1,339	1,822
12	22	192	21	0	0	−	−	213	31	15	21	84	29	−	180	393
1	22	277	32	40	0	−	−	349	1,359	20	42	125	127	−	1,673	2,022
2	23	381	17	0	0	−	−	398	2,768	14	33	256	33	−	3,104	3,502
3	26	521	32	32	0	−	−	585	310	22	56	338	20	−	746	1,331
計	294	4,141	356	96	35	532	17	5,177	5,311	319	715	2,446	1,010	1,459	11,260	16,437

企画・特別展示等観覧者数

企画・特別展	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数（人）							無料観覧者数（人）							観覧者総数（人）
			個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	無料開放日	無料観覧者計	
			一般	高校生大学生	一般	高校生大学生	一般	高校生大学生									
館蔵資料展「木の造形　東北の伝統こけし」	H29.4.25～H29.6.11	42	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	4,116	4,116
館蔵資料展「発掘！発見！松戸の古墳時代」	H29.7.15～H29.9.10	50	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	3,883	3,883
企画展「本土寺と戦国の社会」	H29.9.23～H29.11.12	44	643	15	56	0	532	17	1,263	118	67	528	248	1,068	861	2,890	4,153
第２回博物館アワード作品展	H29.11.28～H29.12.10	12	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	314	314
学習資料展「昔のくらし探検」	H30.1.13～H30.3.25	59	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	7,519	7,519
※「第３回松戸市展選抜展」	H29.4.25～H29.6.4	(36)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(3,307)	(3,307)
※「中学生　縄文土器に挑戦 by drawing 作品展」	H29.8.2～H29.8.20	(17)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(1,542)	(1,542)
※「高校生　縄文土器に挑戦 by drawing 作品展」	H29.8.23～H29.9.10	(17)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(1,088)	(1,088)
松戸市小中学生優秀作品展「※こども県展優秀作品展」	H30.1.13～H30.1.25	(11)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(1,446)	(1,446)
松戸市小中学生優秀作品展「※松戸市小中学生観光絵画優秀作品展」	H30.1.27～H30.2.8	(11)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(1,808)	(1,808)
松戸市小中学生優秀作品展「※明るい社会づくりポスター優秀作品展」	H30.2.10～H30.2.22	(11)	−	−	−	−	−	−	0	−	−	−	−	−	−	(2,022)	(2,022)
計		207	643	15	56	0	532	17	1,263	118	67	528	248	1,068	861	18,722	19,985

※企画展以外については、無料展示につき観覧者の内訳は把握していない。

※括弧内の開館日数及び観覧者数については、同時開催の館蔵資料展又は学習資料展と重複するため合計に含めていない。

博物館無料ゾーン利用者　　（下段総数単位：人）

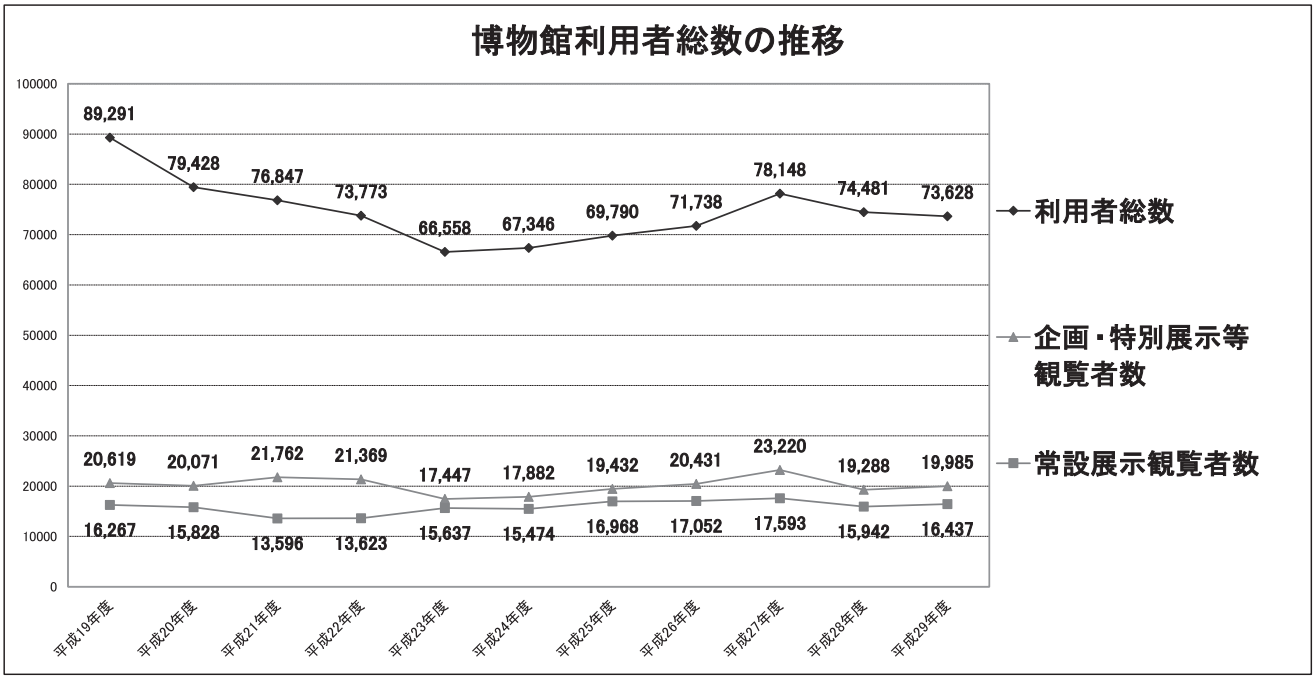
博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	講座・講演会等参加者	合　計
日　数	294日	294日	294日	—	—
利用者総数	11,229	4,608	14,459	6,910	37,206

博物館利用者総計（平成29年４月１日～平成30年３月31日）　　（単位:人）

	平成28年度	平成29年度	前年度比較
常設展示観覧者数	15,942	16,437	495
企画・特別展示等観覧者数	19,288	19,985	697
博物館無料ゾーン利用者	39,251	37,206	△ 2,045
利用者総計	74,481	73,628	△ 853

博物館利用者総数の推移（博物館施設利用者の推移は、下の表のとおりである。）　　（単位：人）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者総数		89,291	79,428	76,847	73,773	66,558	67,346	69,790	71,738	78,148	74,481	73,628
常設展示観覧者数		16,267	15,828	13,596	13,623	15,637	15,474	16,968	17,052	17,593	15,942	16,437
企画・特別展示等観覧者数		20,619	20,071	21,762	21,369	17,447	17,882	19,432	20,431	23,220	19,288	19,985
（うち）	企画展観覧者数	6,270	4,001	4,330	1,993	5,766	2,885	2,576	2,641	3,809	2,917	4,153
	その他展示観覧者数	14,349	16,070	17,432	19,376	11,681	14,997	16,856	17,790	19,411	16,371	15,832
講座・講演会等参加者数		2,264	2,395	2,159	3,384	2,802	3,368	3,259	3,291	3,052	5,999	6,910



6　来訪者（敬称略）

平成29年

4月2日　東国中世考古学研究会　調査来館
4月25日　千葉日報　取材
6月1日　ＮＨＫ千葉放送局　取材
7月15日　千葉日報　取材
7月25日　朝日新聞　読売新聞　取材
7月27日　bay fm（ベイエフエム）　取材
8月6日　J:COM東葛・葛飾　取材
9月23日　毎日新聞、産経新聞、千葉日報　取材
10月7日　千葉歴史学会中世史部会　視察
10月20日　蓮田市教育委員会社会教育課　視察
10月27日　春日部市教育委員会　視察
11月3日　国土交通省職員　視察
11月7日　池上本門寺霊宝殿職員、藤本正行氏（歴史家）　視察
11月8日　柏市教育委員会、いすみ市教育委員会、東日本部落問題研究所　視察
12月1日　葛飾区郷土と天文の博物館　調査来館

平成30年

1月24日　ＪＲ東日本建築設計事務所、PLACE STUDIO、ZIBA Design 視察

V　条例・規則

松戸市立博物館条例

（平成４年９月24日松戸市条例第28号）

（趣旨）

第１条　この条例は、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（位置）

第２条　本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名　　称	位　　置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

（管理）

第３条　博物館は、松戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

（職員）

第４条　博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

（事業）

第５条　博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

⑴　歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。

⑵　博物館資料に関する調査研究を行うこと。

⑶　博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑷　博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。

⑸　博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。

⑹　他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。

⑺　その他教育委員会が必要と認める事業

（観覧料）

第６条　博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

２　教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。

３　既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還することができる。

（入館の制限及び退館）

第７条　教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

⑴　公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。

⑵　博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。

⑶　その他博物館の管理上支障があるとき。

（博物館協議会）

第８条　博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第１項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、委員10名以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

⑴　学校教育関係者

⑵　社会教育関係者

⑶　家庭教育の向上に資する活動を行う者

⑷　学識経験者

３　委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

４　前２項に規定するもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

（委任）

第９条　この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から起算して８か月を越えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

（平成５年３月松戸市教育委員会規則第２号で、同５年４月29日から施行）

附　則（平成10年３月27日松戸市条例第11号）

この条例は平成10年４月１日から施行する。

附　則（平成13年６月21日松戸市条例第23号）

この条例は、平成13年10月１日から施行する。

附　則（平成23年３月30日松戸市条例第11号）

この条例は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成24年３月29日松戸市条例第７号）

この条例は、平成24年４月１日から施行する。

別表（第６条関係）

区分		観覧料（１人１回につき）	
		個人	団体（20人以上）
常設展示	一般	300円	240円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。 ⑴一　般　1,200円 （共通観覧料については、1,440円） ⑵高校生・大学生　600円 （共通観覧料については、700円）		

備考

１　企画・特別展示とは、博物館において通常の展示品以外を展示する場合をいう。

２　共通観覧料とは、常設展示及び企画・特別展示を観覧することができる観覧料をいう。

松戸市立博物館管理運営規則

（平成５年３月26日松戸市教育委員会規則第３号）

（趣旨）

第１条　この規則は、松戸市立博物館条例（平成４年松戸市条例第28号。以下「条例」という。）第９条の規定により、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第２条　博物館の開館時間は、午前９時30分から午後５時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後４時30分までとする。

２　松戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

（休館日）

第３条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

⑴　月曜日

⑵　１月１日から４日まで及び12月28日から31日まで

⑶　館内整理日（毎月第４金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「祝日法による休日」という。）である場合は、この限りでない。）

２　前項第１項の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

（観覧券の交付）

第４条　条例第６条第１項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券（第１号様式）を交付するものとする。

（観覧料の免除等）

第５条　条例第６条第２項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

⑴　高校生及び高校生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。

⑵　博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。

⑶　市内に居住する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人が観覧するとき。

⑷　市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。

⑸　県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第３号）第２条に定める日に観覧するとき。

⑹　その他教育委員会が必要と認めたとき。

２　観覧料の免除を受けようとする者で前項第１号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書（第２号様式）を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

（観覧料の返還）

第６条　条例第６条第３項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書（第３号様式）を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

（資料の貸出し）

第７条　教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

⑴　国立博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第２条第１項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者

⑵　前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

２　博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書（第４号様式）を教育委

員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第５号様式)の交付を受けなければならない。
３　博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。
(文献等の閲覧等)
第８条　教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。
２　文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第６号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第７号様式)の交付を受けなければならない。
３　博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から１年とする。
４　文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第８号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。
(閲覧又は複写の制限)
第９条　教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。
⑴　未公開および未整理のもの
⑵　保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
⑶　寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
⑷　その他教育委員会が不適当と認めたもの
(入館者の遵守事項)
第10条　博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
⑴　施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
⑵　許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
⑶　所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。
⑷　無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
⑸　他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
⑹　前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。
(所掌事務)
第11条　博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。
(職務)
第12条　館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。
２　次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。
３　館長補佐は、館長及び次長を補佐する。
４　その他の職にある者は、上司の命を受け、担任事務を処理する。
(博物館協議会の会長等)
第13条　条例第８条第１項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。
２　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
(博物館協議会の会議等)
第14条　協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。
２　協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
３　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
４　協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。
５　協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。
６　協議会の庶務は、博物館において処理する。
７　前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。
(委任)
第15条　この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附　則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附　則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附　則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附　則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第５条第１項の改正規定は平成７年４月１日から、第11条に１号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附　則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附　則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附　則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附　則（平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附　則（平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附　則（平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附　則（平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附　則（平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

別表（第11条関係）

- 文書の収受、保存及び公印の管理に関すること。
- 観覧料の徴収に関すること。
- 予算、経理及び物品の管理に関すること。
- 要覧及び年報の作成に関すること。
- 財産の管理に関すること。
- 施設及び設備の維持管理に関すること。
- 博物館協議会に関すること。
- 資料選定評価委員会に関すること。
- 市史編さんに関すること。
- 市史編さん委員会に関すること。
- 関係団体との連絡調整に関すること。
- 資料の収集、保存及び展示に関すること。
- 資料の調査及び研究に関すること。
- 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
- 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関すること。
- 資料に関する相談、情報提供に関すること。
- 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関すること。
- 博物館資料の寄贈、寄託に関すること。
- 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関すること。
- その他博物館の専門的事項に関すること。

第１号様式～第８号様式　省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

（平成26年12月25日松戸市条例第28号）

（設置）

第１条　地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の４第３項の規定に基づき、松戸市立博物館等資料選定評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第２条　委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館における歴史に関する資料（以下「歴史資料」という。）の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

⑴　歴史資料の真がんに関する事項

⑵　歴史資料の価格の適否に関する事項

⑶　歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項

⑷　前３号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（組織）

第３条　委員会は、委員５人以内をもって組織する。

（委員）

第４条　委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

２　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

（任期）

第５条　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第６条　委員会に委員長及び副委員長各１人を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第７条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取等）

第８条　委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

（委任）

第９条　この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、平成27年４月１日から施行する。

（特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正）

2　特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例（昭和31年松戸市条例第15号）の一部を次のように改正する。

別表２に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額　20,000円

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」（平成26年12月25日松戸市条例第28号）として条例化されたことに伴い、平成27年３月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

（昭和55年３月26日松戸市条例第３号）

（設置）

第１条　郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

（組織）

第３条　委員会は、５人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

⑴　学識経験者

⑵　市の職員

（任期）

第４条　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

（招集及び会議）

第６条　会議は、委員長が招集する。

（委任）

第７条　この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、昭和55年４月１日から施行する。

（松戸市誌編さん委員会条例の廃止）

2　松戸市誌編さん委員会条例（昭和28年松戸市条例第23号）は、廃止する。

（松戸市役所部課設置条例の一部改正）

3　松戸市役所部課設置条例（昭和38年松戸市条例第３号）の一部を次のように改正する。

第２条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

（目的）

第１条　この要綱は、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

（定数）

第２条　研究員の定数は、８人を超えない範囲内において、館長が定める。

（委嘱）

第３条　研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

（任期）

第４条　研究員の任期は、１年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

（職務）

第５条　研究員は、次に揚げる職務に従事する。

⑴　博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究

⑵　学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究

⑶　その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

（会議）

第６条　館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

（委任）

第７条　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附　則

この要綱は、平成５年12月１日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

（目的）

第１条　この要綱は、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）における博物館資料（以下「資料」という。）の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

（寄贈の申込み）

第２条　松戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

（寄贈の承認）

第３条　教育委員会は、寄贈を受けることとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

（寄託の申込み）

第４条　教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

（寄託資料の受託及び返還）

第５条　教育委員会は、寄託を受けることとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

２　寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

（資料の一時預り）

第６条　教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

２　教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

（寄託期間）

第７条　寄託期間は、３年とする。

２　前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の４月１日とする。

３　教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとともに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

（寄託期間内の返還）

第８条　教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

（寄託資料の一時返還）

第９条　教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

２　一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

３　一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

（寄託資料の所有者変更）

第10条　教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

２　前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有変更届を徴するものとする。

（受託証書の再交付）

第11条　教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

２　教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

（資料の館外貸出し）

第12条　資料の館外貸出しについては、松戸市立博物館管理運営規則第７条に定めるもののほか、次条及び第14条の規定によるものとする。

（資料の館外貸出条件）

第13条　教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に揚げる条件を明示するものとする。

⑴　貸出しを受けた者（以下「借受人」という。）は、貸出しを受けた資料（以下「貸出資料」という。）を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

⑵　貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

⑶　貸出し期間中に貸出資料の保管等のために要する費用は、全て借受人の負担とすること。

⑷　借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。

⑸　貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を

明示すること。
⑹　借受人は、貸出資料を滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
⑺　借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。
⑻　借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものであること。
⑼　博物館職員の指示に従うこと。
⑽　その他必要と認められる条件
（借用書の徴収）
第14条　教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。
（資料の借入れ）
第15条　教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料（以下「借受資料」という。）の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。
（借受資料の返還）
第16条　借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。
（特別利用の申込み）
第17条　資料について、調査、写真撮影等の特別な利用（以下「特別利用」という。）をしようとする者は、資料特別利用申込書（寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書）を教育委員会に提出して申込まなければならない。
（特別利用の承認）
第18条　教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。
（特別利用の条件）
第19条　教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に揚げる条件を明示するものとする。
⑴　資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。
⑵　出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
⑶　出版物等に掲載する場合は、博物館（寄託資料にあっては、博物館及びその所有者）に出版物等を寄贈すること。
⑷　博物館職員の指示に従うこと。
⑸　その他必要と認める条件
（申込書等の様式）
第20条　この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。
（委任）
第21条　この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。
附　則
1　この要綱は、平成５年12月１日から施行する。
2　この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

（目　的）
第１条　この規程は、松戸市立博物館紀要（以下「紀要」という。）への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。
（資　格）
第２条　紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。
⑴　投稿時において松戸市立博物館の職員である者
⑵　投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
⑶　過去において松戸市立博物館の職員であった者
⑷　松戸市立博物館が投稿を依頼した者
⑸　その他松戸市教育委員会が適当と認めた者
（審　査）
第３条　原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程（平成23年10月１日施行。以下「査読規程」という。）にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）で査読の上決定し、著者に通知するものとする。
（投稿区分と枚数）
第４条　紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。
⑴　論文　70枚以内（400字詰原稿用紙換算）
⑵　研究ノート　50枚以内（同上）
⑶　資料紹介　30枚以内（同上）
⑷　その他　編集委員会の定めるところによる
2　前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

3　投稿する原稿は、未発表のものに限る（刊行予定のものは既発表とみなす）。

（投稿形式）

第５条　投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

２　前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、４部とする。

３　前２項の原稿を投稿するときは、図１に示す投稿票を添付するものとする。

（締　切）

第６条　投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

（校　正）

第７条　原稿が受理された以後の本文の書き直しは、校正（明らかな誤字脱字を訂正することをいう。）を除き、これを認めない。

２　前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）にもとづいて形式を訂正することを含む。

３　著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

（別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈）

第８条　著者には著作が掲載された号の紀要を５部贈呈する。

２　別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

（委　任）

第９条　この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附　則

この規定は、平成23年10月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

図１（用紙規格　ＪＩＳＡ５）

投稿票

氏　名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数（400字詰原稿用紙換算）	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

（目　的）

第１条　この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（所掌事務）

第２条　編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

⑴　松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。

⑵　その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

（構　成）

第３条　編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから２名以上の者を松戸市立博物館長（以下「館長」という。）が指名する。

２　編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

（会　議）

第４条　編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

（意見の聴取）

第５条　編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（庶　務）

第６条　編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

（委　任）

第７条　この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附　則

この規程は、平成23年10月１日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

（目的）

第１条　この規程は、松戸市立博物館紀要（以下「紀要」という。）に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（査読）

第２条　松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介（以下「論文等」という。）について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

２　編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

（査読方法）

第３条　編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表１に掲げる事項について評価を行う。

（判定）

第４条　編集委員会は、前条の評価に基づいて別表２に掲げる４段階の判定を行う。

２　前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

（委任）

第５条　この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附　則

この規程は、平成23年10月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

別表１

１　形式
- ⑴　表題・副題の適切さ
- ⑵　章・節等の全体構成の適切さ
- ⑶　原稿枚数の適切さ
- ⑷　投稿区分の妥当性

２　内容
- ⑴　素材及び資料の妥当性、提示方法
- ⑵　論理展開の明確さ
- ⑶　内容の正確さ、完成度
- ⑷　結論の提示方法

３　図表等
- ⑴　図表の必要性
- ⑵　図表の作成、説明の適切さ

４　文献
- ⑴　参照文献の妥当性、引用の適切さ

５　表現
- ⑴　文章の表現力、読みやすさ

別表２

１　掲載可（再審査不要）
- ⑴　このままで掲載可
- ⑵　指摘箇所訂正後に可

２　修正後再審査
- ⑴　書き直し後に再審査
- ⑵　投稿区分の変更を必要とする

３　掲載否
- ⑴　既発表部分が多い
- ⑵　「松戸市立博物館紀要」として不適当
- ⑶　内容不可

４　判定不能
- ⑴　一部他分野の専門家の判断を必要とする
- ⑵　その他

職員名簿（平成29年４月１日現在）

館　　長（非常勤）	望月　幹夫
次　　長	石村　栄一
館長補佐・学芸員	山田　尚彦
館長補佐	大関　ちひろ
主任主事	渡辺　宏一
主　　事	坪内　知世
主　　事	永井　勇輔
主　　幹・学芸員	中山　文人
主　　幹・学芸員	青木　俊也
主　　査・学芸員	柏木　一朗
主任主事・学芸員	小林　孝秀
主任主事・学芸員	富澤　達三
再 任 用・学芸員	大森　隆志

人事異動

〈平成29年４月１日〉（かっこ内は転出後・転入前の所属）

転出：次	長	加藤　和彦（国民年金課）
転入：次	長	石村　栄一（社会福祉協議会）

〈平成30年３月31日〉

退職：次	長	石村　栄一
退職：館長補佐		大関　ちひろ

松戸市立博物館年報　第25号

発 行 日　平成30年８月31日
編集発行　松戸市立博物館
松戸市千駄堀671番地（〒270-2252）
電話 047－384－8181（代表）
http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/
印　　刷　株式会社　弘　文　社

Printed in Japan, 2018©MATSUDO MUSEUM